

ルカによる福音書

第一章

「わたしたちの間に成就された出来事を、最初から親しく見た人々であって、二御言に仕えた人々が伝えたとおり物語に書き連ねようと、多くの人が手を着けましたが、三テオピロ閣下よ、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、ここに、それを順序正しく書きつづつて、閣下に献じることになりました。四すでにお聞きになっている事が確実であること、これによって十分に知っていただきためであります。

五ユダヤの王ヘロデの世に、アビヤの組の祭司で名をザカリヤという者がいた。その妻はアロン家の娘のひとりで、名をエリサベツとあった。六ふたりとも神のみまえに正しい人であって、主の戒めと定めとを、みな落度なく行っていた。七ところが、エリサベツは不妊の女であつたため、彼らには子がなく、そしてふたりともすでに年老いていた。

八さてザカリヤは、その組が当番になり神のみまえに祭司の務をしていたとき、九祭司職の慣例に従つてくじを引いたところ、主の聖所にはいつて香をたくことになつ

た。一〇香をたいている間、多くの民衆はみな外で祈っていた。二すると主の御使が現れて、香壇の右に立った。三ザカリヤはこれを見て、おじ惑い、恐怖の念に襲われた。四そこで御使が彼に言った、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞き入れられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。その子をヨハネと名づけなさい。五彼はあなたに喜びと楽しみとをもたらし、多くの人々もその誕生を喜ぶであろう。六彼は主のみまえに大なる者となり、ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず、母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされており、七そして、イスラエルの多くの子らを、主なる彼らの神に立ち帰らせるであろう。八彼はエリヤの霊と力とをもつて、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう。九するとザカリヤは御使に言った、「どうしてそんな事が、わたしにわかるでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。一〇御使が答えて言った、「わたしは神のみまえに立つガブリエルであつて、この喜ばしい知らせをあなたに語り伝えるために、つかわされたものである。二〇時が来れば成就するわたしの言葉を信じなかつたから、あなたはおしになり、この事の起る日まで、ものが言えなくなる。三民衆はザカリヤを待っていたので、彼が聖所内で暇どっているのを不思議に思っていた。四ついに彼は出てきたが、物

が言えなかったので、人々は彼が聖所内でまぼろしを見たのだと悟った。彼は彼らに合図をするだけで、引きつづき、おしのままでいた。三それから務の期日が終わったので、家に帰った。

二四そののち、妻エリサベツはみごもり、五か月のあいだ引きこもっていたが、二五「主は、今わたしを心にかけてくださって、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました」と言った。

二六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。

二七この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいになづけになっていて、名をマリヤといった。二八御使がマリヤのところనికిて言った、「恵まれた女よ、おめでどう、主があなたと共におられます」。二九この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。三〇すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。三見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。三二彼は高いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、三三彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう。三四そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましようか。わたしには

まだ夫がありませんのに」。三五御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり神の子と、となえられるでしょう。三六あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。三七神には、なんでもできないことはありません」。三八そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

三九そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、四〇ザカリヤの家にはいつてエリサベツにあいさつした。四一エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、四二声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。四三主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。四四ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。四五主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう。四六するとマリヤは言った、「人々よ、わたしは貧しい女で、

四七わたしの霊は救主なる神をたたえます。

四八 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。
 今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言
 うでしよう、
 四九 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださった
 からです。

そのみ名はきよく、

五〇 そのあわれみは、代々限りなく

主をかしこみ恐れる者に及びます。

五一 主はみ腕をもって力をふるい、

心の思ひのおごり高ぶる者を追い散らし、

五二 権力ある者を王座から引きおろし、

卑しい者を引き上げ、

五三 飢えてゐる者を良いもので飽かせ、

富んでゐる者を空腹のまま帰らせなさいます。

五四 主は、あわれみをお忘れにならず、

その僕イスラエルを助けてくださいました、

五五 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを

とこしえにあわれむと約束なさったとおりに。

五六 マリヤは、エリサベツのところ三か月ほど滞在して

から、家に帰った。

五七 さてエリサベツは月が満ちて、男の子を産んだ。

五八 近所の人々や親族は、主が大きなあわれみを彼女にお

かけになったことを聞いて、共どもに喜んだ。

五九 八日目

になったので、幼な子に割礼をするために人々がきて、父

の名にちなんでザカリヤという名にしようとした。ところが、母親は、「いいえ、ヨハネという名にしなければいけません」と言った。六二 人々は、「あなたの親族の中には、そういう名のついた者は、ひとりもいません」と彼女に言った。六三 そして父親に、「どんな名にしたいのですかと、合図で尋ねた。六四 ザカリヤは書板を持ってこさせて、それに「その名はヨハネ」と書いたので、みんなの者は不思議に思った。六五 すると、立ちどころにザカリヤの口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたえた。

六六 近所の人々はみな恐れをいだき、またエダヤの山里の至るところに、これらの事がことごとく語り伝えられた

ので、六七 聞く者たちは皆それを心に留めて、「この子は、

いったい、どんな者になるだろう」と語り合った。主の

み手が彼と共にあった。

六八 父ザカリヤは聖霊に満たされ、預言して言った、

六九 「主なるイスラエルの神は、ほむべきかな。

神はその民を顧みてこれをあがない、

七〇 わたしたちのために救の角を

僕ダビデの家にお立てになった。

七一 古くから、聖なる預言者たちの口によってお語りに

なつたように、

七二 わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む

者の手から、救い出すためである。

七三 こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみを

かけ、その聖なる契約、
すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、

苗わたしたちを敵の手から救い出し、
生きてゐる限り、きよく正しく、

みまえに恐れなく仕えさせてくださるのである。
幼な子よ、あなたは、いと高き者の預言者と呼ばれ

るであろう。

主のみまえに先立つて行き、その道を備え、
罪のゆるしによる救を

その民に知らせるのであるから。

これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。

また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

暗黒と死の陰とに住む者を照し、

わたしたちの足を平和の道へ導くであろう。

幼な子は成長し、その霊も強くなり、そしてイスラエルに現れる日まで、荒野にいた。

第二章 そのころ、全世界の人口調査をせよ

との勅令が、皇帝アウグストから出た。これは、クレニ

オがシリヤの総督であった時に行われた最初の人口調査

であった。三人々はみな登録をするために、それぞれ自

分の町へ帰って行った。ヨセフもダビデの家系であり、

またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、
ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

それは、すでに身重になっていたいなづけの妻マリヤ
と共に、登録をするためであった。ところが、彼らがベ

ツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初

子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客

間には彼らのいる余地がなかったからである。

そこで、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群

れの番をしていた。すると主の御使が現れ、主の栄光

が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。御

使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる

大きな喜びを、あなたがたに伝える。さきよりダビデの

町に、あなたがたのために救主がお生れになった。この

かたこそ主なるキリストである。あなたがたは、幼な

子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見

るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしで

ある。するとたちまち、おびたらしい天の軍勢が現

れ、御使と一緒にあって神をさんびして言った、

「いと高きところでは、神に栄光があるように、
地の上では、み心にかなう人々に平和があるよう

に」。

五御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは

「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったそ
の出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。

二六そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。二七彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人に伝えた。二八人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。二九しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。三〇羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

三八日が過ぎ、割礼をほどこす時となったので、受胎のまえに御使が告げたとおり、幼な子をイエスと名づけた。

三三それから、モーセの律法による彼らのきよめの期間が過ぎたとき、両親は幼な子を連れてエルサレムへ上った。三三それは主の律法に「母の胎を初めて開く男の子はみな、主に聖別された者と、となえられねばならない」と書いてあるとおり、幼な子を主にささげるためであり、二四また同じ主の律法に、「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定めてあるのに従って、犠牲をささげるためであった。三五その時、エルサレムにシメオンという名の人があった。この人は正しい信仰深い人で、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。また聖霊が彼に宿っていた。二六そして主のつかわす救主に会うまでは死ぬことはない、聖霊の示しを受けていた。二七この人が

御霊に感じて宮にはいった。すると律法に定めてあることを行うため、両親もその子イエスを連れてはいったので、二八シメオンは幼な子を腕に抱き、神をほめたたえて言った、

二九「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりに

この僕を安らかに去らせてくださいます、

三〇わたしの目が今あなたの救を見たのですから。

三この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、

三三異邦人を照す啓示の光、

三三み民イスラエルの栄光であります」。

三三父と母とは幼な子についてこのように語られたことを、不思議に思った。三四するとシメオンは彼らを祝し、そして母マリヤに言った、「ごらんなさい、この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために、また反対を受けるしるしとして、定められていきます。——三五そして、あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう。——それは多くの人の心にある思いが、現れるようになるためです」。

三六また、アセル族のパヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は非常に年をとっていた。むすめ時代にとついで、七年間だけ夫と共に住み、三七その後やめぐらしをし、八十四歳になっていた。そして宮を離れずに夜も昼も断食と祈とをもって神に仕えていた。

三八 この老女も、ちょうどそのとき近寄ってきて、神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りきかせた。

三九 両親は主の律法どおりすべての事をすませたので、ガリラヤへむかい、自分の町ナザレに帰った。

四〇 幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上にあつた。

四一 さて、イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上つていた。四二 イエスが十二歳になった時も、慣例に従つて祭のために上京した。四三 ところが、祭が終つて帰るとき、少年イエスはエルサレムに残つておられたが、両親はそれに気づかなかつた。四四 そして道連れの中にいることと思ひこんで、一日路を行つてしまい、それから、親族や知人の中を捜しはじめたが、四五 見つからないので、捜しまわりながらエルサレムへ引返した。四六 して三日の後に、イエスが宮の中で教師たちのまん中にすわつて、彼らの話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。四七 聞く人々はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆していた。四八 両親はこれを見て驚き、そして母が彼に言った、「どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんなさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです」。四九 するとイエスは言われた、「どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか」。五〇 しか

し、両親はその語られた言葉を悟ることができなかった。五 それからイエスは両親と一緒にナザレに下つて行き、彼らにお仕えになった。母はこれらの事をみな心に留めていた。

五二 イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。

第三 章 一 皇帝テベリオ在位の第十五年、ポン

テオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟ピリポがイツリヤ・テラコニテ地方の領主、ルサニヤがアビレネの領主、ニアンナスとカヤパとが大祭司であつたとき、神の言が荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。三 彼はヨルダンのほとりの全地方に行つて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。四 それは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりである。すなわち

「荒野で呼ばわる者の声がする、

『主の道を備えよ、

その道筋をまっすぐにせよ』。

五 すべての谷は埋められ、

すべての山と丘とは、平らにされ、

曲つたところはまっすぐに、

わるい道はならされ、

人はみな神の救を見るであらう」。

六 さて、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして

出てきた群衆にむかって言った、「まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、のがれられると、おまえたちにだれが教えたのか。へだから、悔改めにふさわしい実を結べ。自分たちの父にはアブラハムがあるなどと、心の中で思ってもみるな。おまえたちに言っておく。神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子を起すことができるのだ。九斧がすでに木の根もとに置かれていて、だから、良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれるのだ。一〇そこで群衆が彼に、「それでは、わたしたちは何をすればよいのですか」と尋ねた。二彼は答えて言った、「下着を二枚もっている者は、持たない者に分けてやりなさい。食物を持っている者も同様にしなさい。三取税人もバプテスマを受けにきて、彼に言った、「先生、わたしたちは何をすればよいのですか」。四彼らに言った、「きまっているもの以上に取立ててはいけない」。五兵卒たちもたずねて言った、「では、わたしたちは何をすればよいのですか」。彼は言った、「人をおどかしたり、だまし取ったりしてはいけない。自分の給与で満足していなさい」。

一五民衆は救主を待ち望んでいたので、みな心の中でヨハネのことを、もしかしたらこの人がそれではなからうかと考えていた。一六そこでヨハネはみんなの者にむかって言った、「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。わた

しには、そのくつのひもを解く値うちもない。このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであらう。一七また、箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであらう」。

一八こうしてヨハネはほかにもなお、さまざまの勧めをして、民衆に教を説いた。一九ところが領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロデヤのことで、また自分がしたあらゆる悪事について、ヨハネから非難されていたので、二〇彼を獄に閉じ込めて、いろいろな悪事の上に、もう一つこの悪事を重ねた。

二一さて、民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けて祈っておられると、天が開けて、二聖霊がはどのような姿をとってイエスの上に下り、そして天から声がした、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

三三イエスが宣教をはじめられたのは、年およそ三十歳の時であって、人々の考えによれば、ヨセフの子であった。ヨセフはヘリの子、三四それから、さかのぼって、マタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、三五マタテヤ、アモス、ナホム、エスリ、ナンガイ、二六マハテ、マタテヤ、シメイ、ヨセク、ヨダ、二七ヨハナン、レサ、ゾロバベル、サラテル、ネリ、二八メルキ、アデイ、コサム、エルマダム、エル、二九ヨシユア、エリエゼル、ヨリム、マ

タテ、レビ、^{三〇}シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリヤキム、^{三一}ミレヤ、メナ、マタタ、ナタン、ダビデ、^{三二}エツサイ、オベデ、ボアズ、サラ、ナアソン、^{三三}アミナダブ、^{三四}アデミン、アルニ、エスロン、パレス、ユダ、^{三五}ヤコブ、^{三六}イサク、^{三七}アブラハム、テラ、ナホル、^{三八}セルグ、レウ、ベレグ、エベル、サラ、^{三九}カイナン、アルバクサデ、セム、^{四〇}ノア、ラメク、^{四一}メトセラ、エノク、ヤレデ、マハラレル、^{四二}カイナン、^{四三}エノス、セツ、^{四四}アダム、そして神にいたる。

第四章

一さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダ

ン川から帰り、^二荒野を四十日のあいだ御霊にひきまわされて、悪魔の試みにあわれた。そのあいだ何も食べず、その日数がつきると、空腹になられた。^三そこで悪魔が言った、「もしあなたが神の子であるなら、この石に、パンになれと命じてごらんなさい」。^四イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」。^五それから、悪魔はイエスを高い所へ連れて行き、またたくまに世界のすべての国々を見せて、^六言った、「これらの国々の権威と栄華とをみんな、あなたにあげましょう。それらはわたしに任せられていて、だれでも好きな人にあげてよいのですから。それで、もしあなたがわたしの前にひざまずくなら、これを全部あなたのものにしてあげましょう」。^七ハイエスは答えて言われた、『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。^八それから悪魔はイエスをエルサレムに連れて行

き、宮の頂上に立たせて言った、「もしあなたが神の子であるなら、ここから下へ飛びおりてごらんなさい」。^{一〇}『神はあなたのために、御使たちに命じてあなたを守らせるであろう』とあり、^{一一}また、『あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』とも書いてあります」。^{一二}イエスは答えて言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』と言われている」。^{一三}悪魔はあらゆる試みをしつくして、一時イエスを離れた。

一四それからイエスは御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰られると、そのうわさがその地方全体にひろまった。^{一五}イエスは諸会堂で教え、みんなの者から尊敬をお受けになった。

一六それからお育ちになったナザレに行き、安息日につものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。^{一七}すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、

一八『主の御霊がわたしに宿っている。』

貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、

わたしを聖別してくださったからである。

主はわたしをつかわして、

囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、

打ちひしがれている者に自由を得させ、

一九主のめぐみの年を告げ知らせるのである。

二〇イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。二三そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。三三すると、彼らはみなイエスをほめ、またその口から出て来るめぐみの言葉に感嘆して言った、「この人はヨセフの子ではないか」。三三そこで彼らに言われた、「あなたがたは、きっと『医者よ、自分自身をいやせ』ということわざを引いて、カペナウムで行われたと聞いていた事を、あなたの郷里のこの地でもしてくれ、と言うであらう」。二四それから言われた、「よく言うておく。預言者は、自分の郷里では歓迎されないものである。二五よく聞いておきなさい。エリヤの時代に、三年六か月にわたって天が閉じ、イスラエル全土に大きな飢饉があった際、そこには多くのやもめがいたのに、二六エリヤはそのうちのだれにもつかわされないうで、ただシドンのサレプタにいるひとりのやもめだけつかわされた。二七また預言者エリシャの時代に、イスラエルには多くのらい病人がいたのに、そのうちのひとりもきよめられないで、ただシリアのナアマンだけがきよめられた」。二八会堂にいた者たちはこれを聞いて、みな憤りに満ち、二九立ち上がってイエスを町の外へ追い出し、その町が建っている丘のがけまでひっぱって行って、突き落そうとした。三〇しかし、イエスは彼らのまん中を

通り抜けて、去って行かれた。

三三それから、イエスはガリラヤの町カペナウムに下って行かれた。そして安息日になると、人々をお教えになったが、三三その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。三三すると、汚れた悪霊につかれた人が会堂にいて、大声で叫び出した、三四「ああ、ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。三五イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると悪霊は彼を人なかに投げ倒し、傷は負わずに、その人から出て行った。三六みんなの者は驚いて、互に語り合って言った、「これは、いったい、なんという言葉だろう。権威と力とをもって汚れた霊に命じられると、彼らは出て行くのだ」。三七こうしてイエスの評判が、その地方のいたる所にひろまっていた。

三八イエスは会堂を出てシモンの家におはいりになった。ところがシモンのしゅうとめが高い熱を病んでいた。人々は彼女のためにイエスにお願いした。三九そこで、イエスはそのまくらもとに立って、熱が引くように命じられると、熱は引き、女はすぐに起き上がって、彼らをもてなした。

四〇日が暮れると、いろいろな病気になやむ者をかかえている人々が、皆それをイエスのところに連れてきたの

で、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしになった。
 四二 悪霊も「あなたこそ神の子です」と叫びながら多くの
 人々から出ていった。しかし、イエスは彼らを戒めて、
 物を言うことをお許しにならなかった。彼らがイエスは
 キリストだと知っていたからである。

四三 夜が明けると、イエスは寂しい所へ出て行かれたが、
 群衆が捜しまわって、みもとに集まり、自分たちから離
 れて行かれないようにと、引き止めた。四四 しかしイエス
 は、「わたしは、ほかの町々にも神の国の福音を宣べ伝え
 ねばならない。自分はそのためにつかわされたのである」
 と言われた。四五 そして、ユダヤの諸会堂で教を説かれた。

第五章 「さて、群衆が神の言を聞くようとして
 押し寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に立ってお
 られたが、二そこに二そうの小舟が寄せてあるのをごら
 んになった。漁師たちは、舟からおりて網を洗っていた。
 三その一そうはシモンの舟であつたが、イエスはそれに乗
 り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そして
 すわって、舟の中から群衆にお教えになった。四 話がす
 むと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみ
 なさい」と言われた。五 シモンは答えて言った、「先生、わ
 たしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。
 しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。
 六 そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群
 れがはいって、網が破れそうになった。七 そこで、もう一

そうの舟にいた仲間、加勢に来るよう合図をしたので、
 彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、
 舟が沈みそうになった。八 これを見てシモン・ペテロは、
 イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしか
 ら離れてください。わたしは罪深い者です」。九 彼も一緒
 にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚い
 たからである。一〇 シモンの仲間であつたゼバイの子ヤ
 コブとヨハネも、同様であつた。すると、イエスがシモ
 ンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間
 をとる漁師になるのだ」。二そこで彼らは舟を陸に引き
 上げ、いっさいを捨ててイエスに従つた。

三 イエスがある町におられた時、全身らい病になつて
 いる人がそこにいた。イエスを見ると、顔を地に伏せて
 願つて言った、「主よ、みこころでしたら、きよめていた
 だけるのですが」。四 イエスは手を伸ばして彼にさわ
 り、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、
 らい病がただちに去つてしまつた。五 イエスは、だれに
 も話さないようにと彼に言い聞かせ、「ただ行つて自分の
 からだを祭司に見せ、それからあなたのきよめのため、
 モーセが命じたとおりのささげ物をして、人々に証明し
 なさい」とお命じになつた。六 しかし、イエスの評判は
 ますますひろまつて行き、おびただしい群衆が、教を聞
 いたり、病気をなおしてもらつたりするために、集ま
 ってきた。七 しかしイエスは、寂しい所に退いて祈つてお

られた。

二七ある日のこと、イエスが教えておられると、ガリラヤやユダヤの方々の村から、またエルサレムからきたパリサイ人や律法学者たちが、そこにすわっていた。主の力が働いて、イエスは人々をいやされた。二八その時、あつたまま連れてきて、家の中に運び入れ、イエスの前に置こうとした。一九ところが、群衆のためにどうしても運び入れる方法がなかったので、屋根にのぼり、瓦をはいて、病人を床ごと群衆のまん中につりおろして、イエスの前においた。二〇イエスは彼らの信仰を見て、「人よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。二一すると律法学者とパリサイ人たちは、「神を汚すことを言うこの人は、いったい、何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」と言つて論じはじめた。二三イエスは彼らの論議を見ぬいて、「あなたがたは心の中で何を論じているのか。二四あなたの罪はゆるされたと言ふのと、起きて歩けと言ふのと、どちらがたやすいか。二五しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威を持つてゐることが、あなたがたにわかるために」と彼らに対して言い、中風の者にむかつて、「あなたに命じる。起きよ、床を取り上げて家に帰れ」と言われた。二六すると病人は即座にみんなの前で起きあがり、寝ていた床を取りあげて、神をあらがめながら家に帰つて行つた。二七みんなの者は驚嘆して

しまった。そして神をあらがめ、おそれに満たされて、「きょうは驚くべきことを見た」と言つた。

二七そののち、イエスが出て行かれると、レビという名の取税人が収税所にすわっているのを見て、「わたしに従つてきなさい」と言われた。二八すると、彼はいっさいを捨てて立ちあがり、イエスに従つてきた。二九それから、レビは自分の家で、イエスのために盛大な宴会を催したが、取税人やそのほか大ぜいの人々が、共に食卓に着いていた。三〇ところが、パリサイ人やその律法学者たちが、イエスの弟子たちに対してつぶやいて言つた、「どうしてあなたがたは、取税人や罪人などと飲食を共にするのか」。三一イエスは答えて言われた、「健康な人には医者はいらない。いるのは病人である。三二わたしがかきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」。三三また彼らはイエスに言つた、「ヨハネの弟子たちは、しばしば断食をし、また祈をしており、パリサイ人の弟子たちもそうしているのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています」。三四するとイエスは言われた、「あなたがたは、花婿が一緒にゐるのに、婚礼の客に断食をさせることができるであらうか。三五しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食をするであらう」。三六それからイエスはまた一つの譬を語られた、「だれも、新しい着物から布ぎれを切り取つて、古い着物につぎを当て

るものはない。もしそんなことをしたら、新しい着物を裂くことになるし、新しいのから取った布ぎれも古いのに合わないであろう。三三まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしない。もしそんなことをしたら、新しいぶどう酒は皮袋をはり裂き、そしてぶどう酒は流れ出るし、皮袋もむだになるであろう。三八新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。三九まただれも、古い酒を飲んでから、新しいのをほしがりはいない。『古いのが良い』と考えているからである」。

第六章

一ある安息日にイエスが麦畑の中を

とおって行かれたとき、弟子たちが穂をつみ、手でもみながら食べていた。二すると、あるパリサイ人たちが言った、「あなたがたはなぜ、安息日にしてはならぬことをするのか」。三そこでイエスが答えて言われた、「あなたがたは、ダビデとその供の者たちとが飢えていたとき、ダビデのしたことについて、読んだことがないのか。四すなわち、神の家にいって、祭司たちのほかだれも食べてはならぬ供えのパンを取って食べ、また供の者たちにも与えたではないか」。五また彼らに言われた、「人の子は安息日の主である」。

六また、ほかの安息日に会堂にはいつて教えておられたところ、そこに右手のなえた人がいた。七律法学者やパリサイ人たちは、イエスを訴える口実を見付けようと思つて、安息日にいやされるかどうかをうかがっていた。

八イエスは彼らの思っていることを知って、その手のなえた人に、「起きて、まん中に立ちなさい」と言われると、起き上がった。九そこでイエスは彼らにむかつて言われた、「あなたがたに聞くが、安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を救うのと殺すのと、どちらがよいか」。一〇そして彼ら一同を見まわして、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりになると、その手は元どおりになった。二そこで彼らは激しく怒って、イエスをどうかしてやろうと、互に話し合ひをはじめた。

三このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。四夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。五すなわち、ペテロとも呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、六マタイとトマス、アルパヨの子ヤコブと、熱心党と呼ばれたシモン、七ヤコブの子ユダ、それからイスカリオテのユダ。このユダが裏切者となつたのである。八そして、イエスは彼らと一緒に山を下って平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、九教を聞くところとして、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。一〇そして汚れた霊に悩まされている者たちも、いやされた。一一また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々に

やしたからである。

三〇そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、

「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。

神の国はあなたがたのものである。

三一あなたがたいま飢えてゐる人たちは、さいわいだ。

飽き足りるようになるからである。

あなたがたいま泣いてゐる人たちは、さいわいだ。

笑うようになるからである。

三二人々があなたがたを憎むとき、また人の子のために

あなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるとき

は、あなたがたはさいわいだ。

三三その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたが

たの受ける報いは大きいのだから。彼らの祖先も、

預言者たちに対して同じことをしたのである。

三四しかしあなたがた富んでゐる人たちは、わざわいだ。

慰めを受けてしまつてゐるからである。

三五あなたがた今満腹してゐる人たちは、わざわいだ。

飢えるようになるからである。

あなたがた今笑つてゐる人たちは、わざわいだ。悲

しみ泣くようになるからである。

三六人が皆あなたがたをほめるときは、あなたがたはわ

ざわいだ。彼らの祖先も、にせ預言者たちに対して

同じことをしたのである。

三七しかし、聞いてゐるあなたがたに言う。敵を愛し、

憎む者に親切にせよ。三八のろう者を祝福し、はずかしめ

る者のために祈れ。三九あなたの頬を打つ者にはほかの頬

をも向けてやり、あなたの上着を奪ひ取る者には下着を

も拒むな。四〇あなたがたに求める者には与えてやり、あなた

の持ち物を奪う者からは取りもとそうとするな。三一人々

にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそ

のとおりになせよ。三二自分を愛してくれる者を愛したから

とて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を

愛してくれる者を愛してゐる。三三自分によくしてくれる

者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人で

さえ、それくらいの事はしてゐる。三四また返してもらはう

つもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人

でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に

貸すのである。三五しかし、あなたがたは、敵を愛し、人

によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。

そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き

者の子となるであらう。いと高き者は、恩を知らぬ者に

も悪人にも、なさけ深いからである。三六あなたがたの父

なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者とな

れ。三七人をさばくな。そうすれば、自分もさばかれるこ

とがないであらう。また人を罪に定めるな。そうすれば、

自分も罪に定められることがないであらう。ゆるしてや

れ。そうすれば、自分もゆるされるであらう。三八与えよ。

そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから」。

三九 イエスはまた一つの譬を語られた、「盲人は盲人の手引がでしようか。ふたりとも穴に落ち込まないだろうか。四〇 弟子はその師以上のものではないが、修業をつめば、みなその師のようになろう。四一 なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。四二 自分の目にある梁は見ないでいて、どうして兄弟にむかって、兄弟よ、あなたの目にあるちりを取らせてください、と言えようか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい、そうすれば、はつきり見えるようになって、兄弟の目にあるちりを取りのけることができるだろう。四三 悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木もない。四四 木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともない。四五 善人は良い心の倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。心からあふれ出ることを、口が語るものである。

四六 わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか。四七 わたしのもとにきて、わたしの言葉を聞いて行こう者が、何に似ているか、あなたがた

に教えよう。四八 それは、地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建てる人に似ている。洪水が出て激流がその家に押し寄せてきても、それを揺り動かすことはできない。よく建ててあるからである。四九 しかし聞いても行わない人は、土台なしで、土の上に家を建てた人に似ている。激流がその家に押し寄せてきたら、たちまち倒れてしまい、その被害は大きいのである」。

第七章 イエスはこれらの言葉をことごとく人々に聞かせてしまったのち、カペナウムに帰ってこられた。二ところが、ある百卒長の頼みにしていた僕が、病氣になつて死にかかつていた。三 この百卒長はイエスのことを聞いて、ユダヤ人の長老たちをイエスのところにつかわし、自分の僕を助けにきてくださるようにと、お願いした。四 彼らはイエスのところにきて、熱心に願つて言った、「あの人はそうしていただくねうちがございませう。五 わたしたちの国民を愛し、わたしたちのために会堂を建ててくれたのです」。六 そこで、イエスは彼らと連れだつてお出かけになった。ところが、その家からほど遠くないあたりまでこられたとき、百卒長は友だちを送つてイエスに言わせた、「主よ、どうぞ、ご足労くださいませんように。わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。七 それですから、自分でお迎えにあがるねうちさえないと思つていたのです。ただ、お言葉を下さい。そして、わたしの僕をなおして

ください。わたしも權威の下に服している者ですが、わたしの下にも兵卒がいまして、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです。イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた群衆の方に振り向いて言われた、「あなたがたに言うておくが、これほどの信仰は、イスラエルの中でも見たことがない」。二使にきた者たちが家に帰ってみると、僕は元氣になっていた。

二そののち、間もなく、ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒に行った。三町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであつた。大ぜいの町の人たちが、その母につきそつていた。三主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。四そして近寄つて棺に手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まつたので、「若者よ、さあ、起きなさい」と言われた。五すると、死人が起き上がつて物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになつた。六人々はみな恐れをいだき、「大預言者がわたしたちの間に現れた」、また、「神はその民を顧みてくださった」と言つて、神をほめたたえた。七イエスについてのこの話は、ユダヤ全土およびその附近のいたる所にひろまつた。

一八ヨハネの弟子たちは、これらのことを全部彼に報告した。するとヨハネは弟子の中からふたりの者を呼んで、「主のもとに送り、『きたるべきかた』はあなたなのです。九か。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか」と尋ねさせた。二そこで、この人たちがイエスのもとにきて言つた、「わたしたちはバプテスマのヨハネからの使ですが、『きたるべきかた』はあなたなのですか、それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか、とヨハネが尋ねています。三そのとき、イエスはさまざまの病苦と悪霊とに悩む人々をいやし、また多くの盲人を見えるようにしておられたが、四答えて言われた、「行つて、あなたがたが見聞きたことを、ヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされてゐる。五わたしにつまずかない者は、さいわいである」。

六ヨハネの使が行つてしまうと、イエスはヨハネのことを群衆に語りはじめられた、「あなたがたは、何を見に荒野に出てきたのか。風に揺らぐ葦であるか。七では、何を見に出てきたのか。柔らかな着物をまとつた人か。八きらびやかに着かざつて、ぜいたくに暮している人々なら、宮殿にゐる。九では、何を見に出てきたのか。預言者か。そうだ、あなたがたに言うが、預言者以上の者である」。

二七『見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、』

あなたの前に、道を整えさせるであろう』

と書いてあるのは、この人のことである。二八あなたがたに言っておく。女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。二九（これを聞いた民衆は皆、また取税人たちも、ヨハネのバプテスマを受けて神の正しいことを認めた。三〇しかし、パリサイ人と律法学者たちとは彼からバプテスマを受けないで、自分たちに対する神のみこころを無にした。三一だから今の時代の人々を何に比べようか。彼らは何に似ているか。三二それは子供たちが広場にすわって、互に呼びかけ、

『わたしたちが笛を吹いたのに、』

あなたがたは踊ってくれなかった。

弔いの歌を歌ったのに、

泣いてくれなかった』

と言うのに似ている。三三なぜなら、バプテスマのヨハネがきて、パンを食べることも、ぶどう酒を飲むこともしないうと、あなたがたは、あれは悪霊につかれているのだ、と言ひ、三四また人の子がきて食べたり飲んだりしている、と、見よ、あれは食をむさぼる者、大酒を飲む者、また取税人、罪人の仲間だ、と言ひ。三五しかし、知恵の正しいことは、そのすべての子が証明する。

三六あるパリサイ人がイエスに、食事を共にしたいと申

し出たので、そのパリサイ人の家にはいつて食卓に着かれた。三七するとそのとき、その町で罪の女であったものが、パリサイ人の家で食卓に着いておられることを聞いて、香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、三八泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。三九イエスを招いたパリサイ人がそれを見て、心の中で言った、「もしこの人が預言者であるなら、自分にさわっている女がだれだか、どんな女かわかるはずだ。それは罪の女なのだから」。四〇そこでイエスは彼にむかって言われた、「シモン、あなたに言うことがある」。彼は「先生、おっしゃってください」と言った。四一イエスが言われた、「ある金貸しに金をかりた人がふたりいたが、ひとり五百デナリ、もうひとり五十デナリを借りていた。四二ところが、返すことができなかったので、彼はふたり共ゆるしてやった。このふたりのうちで、どちらが彼を多く愛するだろうか」。四三シモンが答えて言った、「多くゆるしてもらったほうだと思います」。イエスが言われた、「あなたの判断は正しい」。四四それから女の方に振り向いて、シモンに言われた、「この女を見ないか。わたしがあなたの家にはいつてきた時に、あなたは足を洗う水をくれなかった。ところが、この女は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でふいてくれた。四五あなたはわたしに接吻をしてくれなかった

が、彼女(かのじよ)はわたし(わたし)が家(いえ)にはいった時から、わたし(わたし)の足(あし)に接吻(せつふん)をしてやまなかつた。四六 あなたはわたし(わたし)の頭に油(あぶら)を塗(ぬ)ってくれなかつたが、彼女はわたし(わたし)の足(あし)に香油(かうゆ)を塗(ぬ)ってくれた。四七 それであなたに言うが、この女(おんな)は多く愛(あい)したから、その多く(おほく)の罪(つみ)はゆるされてゐるのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛(あい)さない」。四八 して女(おんな)に、「あなたの罪(つみ)はゆるされた」と言(い)われた。四九 すると同席(どうせき)の者(もの)たちが心(こころ)の中で言(い)はじめた、「罪(つみ)をゆるすこと(こと)さえするこの人(ひと)は、いったい、何者(なんもの)だろう」。五〇 かし、イエスは女(おんな)にむかつて言(い)われた、「あなたの信仰(しんこう)があなたを救(すく)つたのです。安心して行(い)きなさい」。

第八章 「そののちイエスは、神(かみ)の国(くに)の福音(ふくいん)を説(と)きまた伝(つた)えながら、町々(まちまち)村々(むらむら)を巡回(しゆんかい)し続(つづ)けられたが、十二弟子(じふにでし)もお供(とも)をした。二また悪霊(あくれい)を追(お)ひ出(だ)され病氣(びやうき)をいやされた数名(すうめい)の婦人(ふじん)たち、すなわち、七つの悪霊(あくれい)を追(お)ひ出(だ)してもらつたマグダラと呼ば(よ)ばれるマリヤ、三ヘロデの家令(かれい)クレーザの妻(つま)ヨハンナ、スザンナ、そのほか多(おほ)くの婦人(ふじん)たちも一(いっ)緒(しよ)にいて、自分(じぶん)たちの持(も)ち物(もの)をもつて一行(いっこう)に奉仕(ほうし)した。

四 さて、大ぜい(おほ)の群衆(ぐんしゆ)が集(あつ)まり、その上(うへ)、町々(まちまち)からの人(ひと)たちがイエス(イエス)のところ(ところ)に、ぞくぞくと押(お)し寄(よ)せてきたので、一つ(ひとつ)の譬(たとへ)で話(はなし)をされた、五「種まき(たねまき)が種(たね)をまきに出發(で)つた。まいてゐるうちに、ある種(たね)は道(みち)ばたに落(お)ち、踏(ふ)みつけられ、そして空(そら)の鳥(とり)に食(た)べられてしまつた。六ほ

かの種(たね)は岩(いわ)の上(うへ)に落(お)ち、はえはしたが水氣(みずけ)がないので枯(か)れてしまつた。七ほかの種(たね)は、いばらの間(あひだ)に落(お)ちたので、いばらも一(いっ)緒(しよ)に茂(しげ)つてきて、それをふさいでしまつた。八ところが、ほかの種(たね)は良い地(ち)に落(お)ちたので、はえ育(そだ)つて百倍(ひゃくばい)もの実(み)を結(むす)んだ。こう語(かた)られたのち、声(こゑ)をあげて「聞く耳(みみ)のある者(もの)は聞(き)くがよい」と言(い)われた。

九 弟子(でし)たちは、この譬(たとへ)はどういう意味(いみ)でしようか、とイエス(イエス)に質問(しつもん)した。一〇 そこで言(い)われた、「あなたがたには、神(かみ)の国(くに)の奥義(おくぎ)を知(し)ることが許(ゆる)されてゐるが、ほかの人(ひと)たちには、見(み)ても見(み)えず、聞(き)いても悟(さと)られないために、譬(たとへ)で話(はなし)すのである。二この譬(たとへ)はこういう意味(いみ)である。種(たね)は神(かみ)の言(ことば)である。三道(みち)ばたに落(お)ちたのは、聞(き)いたのち、信(しん)じることも救(すく)われることもないように、悪魔(あくま)によつてその心(こころ)から御言(みことば)が奪(うば)ひ取(と)られる人(ひと)たちのことである。四三岩(いわ)の上(うへ)に落(お)ちたのは、御言(みことば)を聞(き)いた時には喜(よろこ)んで受けいれるが、根(ね)が無いので、しばらくは信(しん)じていても、試(し)鍊(れん)の時(とき)が来(く)ると、信仰(しんこう)を捨(す)てる人(ひと)たちのことである。五いばらの中に落(お)ちたのは、聞(き)いてから日(ひ)を過(す)ぐうちに、生活(せいふ)の心づかいや富(とみ)や快楽(かいらく)にふさがれて、実(み)の熟(じやく)するまでにならな人(ひと)たちのことである。六良い地(ち)に落(お)ちたのは、御言(みことば)を聞(き)いたのち、これを正(ただ)しい良(よ)い心(こころ)でしっかりと守(まも)り、耐(た)え忍(しの)んで実(み)を結(むす)ぶに至(いた)る人(ひと)たちのことである。

一六 だれもあかりをともして、それを何(なん)かの器(うつわ)でおおい

かぶせたり、寝台の下に置いたりはしない。燭台の上に置いて、はいつて来る人たちに光が見えるようにするのである。二七隠されているもので、あらわにならないものはなく、秘密にされているもので、ついには知られ、明るみに出されぬものはない。二八だから、どう聞くかに注意するがよい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っていると思っているものまでも、取り上げられるであろう。

一九さて、イエスの母と兄弟たちとがイエスのところへきたが、群衆のためそば近くに行くことができなかった。二〇それで、だれかが「あなたの母上と兄弟がたが、お目にかかろうと思つて、外に立つておられます」と取次いだ。二三するとイエスは人々にむかつて言われた、「神の御言を聞いて行かう者こそ、わたしの母、わたしの兄弟なのである」。

三ある日のこと、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたので、一同が船出した。三渡って行く間に、イエスは眠ってしまった。すると突風が湖に吹きおろしてきたので、彼らは水をかぶつて危険になった。二四そこで、みそばに寄つてきてイエスを起し、「先生、先生、わたしたちは死にそうです」と言った。イエスは起き上がった、風と荒浪をおしかりになると、止んでなぎになった。二五イエスは彼らに言われた、「あなたがたの信仰は、どこにあるのか」。彼ら

は恐れ驚いて互に言い合つた、「いったい、このかたはたれだろう。お命じになると、風も水も従うとは」。

二六それから、彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡つた。二七陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。二八この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言つた、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いです、わたしを苦しめないでください」。二九それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。三〇というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切つては悪霊によって荒野へ追いやられていたのである。三〇イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がいり込んでいたからである。三三悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願ひつづけた。三三ところが、その山べにおびただしい豚の群れが飼つてあつたので、その豚の中へはいることを許していただくたいと、悪霊どもが願ひ出た。イエスはそれを許しになった。三三そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。

三〇 飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。三一 人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。三二 それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。三三 それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。三八 悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しになった。三九 家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

四〇 イエスが帰ってこられると、群衆は喜び迎えた。みんながイエスを待ちうけていたのである。四一 するとそこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようにと、しきりに願った。四二 彼に十二歳ばかりになるひとり娘があったが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。四三 ここに、十二年間も長血をわずらっていて、医者

のために自分の身代をみな使いつ果してしまつたが、だれにもなおしてもらえなかった女がいた。四四 この女がうしろから近寄つてみ衣のふさにさわつたところ、その長血がたちまち止まつてしまつた。四五 イエスは言われた、「わたしにさわつたのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言つたので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。四六 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわつた。力がわたしから出て行つたのを感じたのだ」。四七 女は隠しきれないのを知つて、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわつた訳と、さわるとたちまちなおつたこととを、みんなの前で話した。四八 そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救つたのです。安心して行きなさい」。

四九 イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言つた。五〇 しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかつて言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。五一 それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいつて来ることをお許しにならなかつた。五二 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。五三 人々は娘

が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。五五 イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。五五するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。五六両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

第九章 「それからイエスは十二弟子を呼び集めて、彼らにすべての悪霊を制し、病気をいやす力と権威をお授けになった。二また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわして、三言われた、「旅のために何も携えるな。つえも袋もパンも錢も持たず、また下着も二枚は持つな。四また、どこかの家にはいったら、そこに留まっておれ。そしてそこから出かけることにしなさい。五だれもあなたがたを迎えるものがないかったら、その町を出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足からちりを払い落しなさい」。六弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で福音を宣べ伝え、また病気をいやした。

七さて、領主ヘロデはいろいろな出来事を耳にして、あわて惑っていた。それは、ある人たちは、ヨハネが死人の中からよみがえったと言ひ、八またある人たちは、エリヤが現れたと言ひ、またほかの人たちは、昔の預言者のひとり復活したのだと言っていたからである。九そこでヘロデが言った、「ヨハネはわたしがすでに首を切っ

たのだが、こうしてうわさされているこの人は、いったい、だれなのだろう」。そしてイエスに会ってみようと思っていた。

一〇使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイエスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。二ところが群衆がそれと知って、ついてきたので、これを迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する人たちをいやされた。三それから日が傾きかけたので、十二弟子がイエスのもとにきて言った、「群衆を解散して、まわりの村々や部落へ行って宿を取り、食物を手にいれるようにさせてください。わたしたちはこんな寂しい所にきているのですから」。四しかしイエスは言われた、「あなたがたの手で食物をやりなさい」。彼らは言った、「わたしたちにはパン五つと魚二ひきしかありません、この大ぜいの人のために食物を買いに行くかしなければ」。五というのは、男が五千人ばかりもいたからである。しかしイエスは弟子たちに言われた、「人々をおおよそ五十人ずつの組にして、すわらせなさい」。六彼らはそのとおりにして、みんなをすわらせた。七一イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰いでそれを祝福してさき、弟子たちにわたして群衆に配らせた。七二みんなの者は食べて満腹した。そして、その余りくずを集めたら、十二かごであった。

八一イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが

近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。一九彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言ひ、また昔の預言者のひとりか復活したのだと、言っている者もあります」。二〇彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペテロが答えて言った、「神のキリストです」。三イエスは彼らを戒め、この事をだれにも言うなと命じ、そして言われた、三一人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目によみがえる。三それから、みんなの者に言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。四自分の命を救おうと思う者はそれを失ひ、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであらう。五人が全世界をもうけても、自分自身を失ひまたは損したなら、なんの得にならうか。六わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、自分の栄光と父と聖なる御使との栄光のうちに現れて来るとき、その者を恥じるであらう。七よく聞いておくがよい、神の国を見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

二八これらのことを話された後、八日ほどたってから、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために

山に登られた。二九祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆいほどに白く輝いた。三〇すると見よ、ふたりの人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤであつたが、三栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げようとする最後のことに付いて話していたのである。三二ペテロとその仲間の者たちとは熟睡していたが、目をさますと、イエスの栄光の姿と、共に立っているふたりの人を見た。三三このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテロは自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言った、「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。三四彼がこう言っている間に、雲がわき起つて彼らをおおひはじめた。そしてその雲に囲まれたとき、彼らは恐れた。三五すると雲の中から声があつた、「これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け」。三六そして声が止んだとき、イエスがひとりだけになっておられた。弟子たちは沈黙を守つて、自分たちが見たことについては、そのころだれにも話さなかつた。

三七翌日、一同が山を降りて来ると、大ぜいの群衆がイエスを出迎えた。三八すると突然、ある人が群衆の中から大声をあげて言った、「先生、お願いです。わたしのむすこを見てやってください。この子はわたしのひとりむす

すのですが、^{三九}霊が取りつきますと、彼は急に叫び出すのです。それから、^{四〇}霊は彼をひきつけて、あわを吹かせ、彼を弱り果てさせて、なかなか出て行かないのです。^{四一}それで、お弟子たちに、この霊を追い出してくださるように願いました。が、できませんでした。^{四二}イエスは答えて言われた、「ああ、なんとこの不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか、またあなたがたに我慢ができれば、あなたの子をここに連れてきなさい」。^{四三}ところが、その子がイエスのところに来る時にも、^{四四}悪霊が彼を引き倒して、引きつけさせた。イエスは、この汚れた霊をしっかりとけ、その子供をいまして、父親にお渡しになった。^{四五}人はみな、神の偉大な力に非常に驚いた。

^{四六}みんなの者がイエスのしておられた数々の事を不思議に思っていると、弟子たちに言われた、^{四七}「あなたがたはこの言葉を耳におさめて置きなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている」。^{四八}しかし、彼らはなんのこともわからなかった。それが彼らに隠されていて、悟ることができなかったのである。また彼らはそのことについて尋ねるのを恐れていた。

^{四九}弟子たちの間に、彼らのうちでだれがいちばん偉いだろうかということ、議論がはじまった。^{五〇}イエスは彼らの心の思いを見抜き、ひとりの幼な子を取りあげて自分のそばに立たせ、彼らに言われた、^{五一}「だれでもこの

幼な子^{五二}をわたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。そしてわたしを受けいれる者は、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである。あなたがたみんなの中でいちばん小さい者こそ、大きいのである」。

^{五三}するとヨハネが答えて言った、「先生、わたしたちはある人があなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちの仲間でないで、やめさせました」。^{五四}イエスは彼に言われた、「やめさせないがよい。あなたがたに反対しない者は、あなたがたの味方なのである」。

^{五五}さて、イエスが天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ、^{五六}自分に先立って使者たちをおつかわしになった。そして彼らがサマリヤ人の村へはいつて行き、イエスのために準備をしようとしたところ、^{五七}村人は、エルサレムへむかって進んで行かれるというので、イエスを歓迎しようとはしなかった。^{五八}弟子のヤコブとヨハネとはそれを見て言った、「主よ、いかがでしょう。彼らを焼き払ってしまふように、天から火をよび求めましょうか」。^{五九}イエスは振りかえって、彼らをおしかりになった。^{六〇}そして一同はほかの村へ行つた。

^{六一}道を進んで行くと、ある人がイエスに言った、「あなたがおいでになる所ならどこへでも従ってまいります」。

五八 イエスはその人に言われた、「きつねには穴があり、空の鳥には巢がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」。五九 またほかの人に、「わたしに従ってきなさい」と言われた。するとその人が言った、「まず、父を葬りに行かせてください」。六〇 彼に言われた、「その死人を葬ることは、死人に任せておくがよい。あなたは、出て行って神の国を告げひろめなさい」。六一 またほかの人が言った、「主よ、従ってまいります、まず家の者に別れを言に行かせてください」。六二 イエスは言われた、「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである」。

第一〇章 「その後、主は別に七十二人を選び、行こうとしておられたすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになった。二 そのとき、彼らに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。三 さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである。四 財布も袋もくつも持って行くな。だれにも道であいさつするな。五 どこかの家にはいったら、まず『平安がこの家にあるように』と言いなさい。六 もし平安の子がそこにおれば、あなたがたの祈る平安はその人の上にとどまるであろう。もしそうでなかったら、それはあなたがたの上に帰って来るであろう。七 それで、その同

じ家に留まっていって、家の人が出してくれるものを飲み食いしなさい。働き人がその報いを得るのは当然である。八 家から家へと渡り歩くな。九 どの町へはいつても、人々があなたがたを迎えてくれるなら、前に出されるものを食べなさい。一〇 そして、その町にいる病人をいやしてやり、『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。一一 しかし、どの町へはいつても、人々があなたがたを迎えない場合には、大通りに出て行って言いなさい、『わたしたちの足についているこの町のちりも、ぬぐい捨てて行く。しかし、神の国が近づいたことは、承知しているがよい』。一二 あなたがたに言っておく。その日には、この町よりもソドムの方が耐えやすいであろう。一三 わざわいだ、コラジンよ。わざわいだ、ベツサイダよ。おまえたちの中でなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰の中にすわって、悔い改めたであろう。一四 しかし、さばきの日には、ツロとシドンの方がおまえたちよりも、耐えやすいであろう。一五 ああ、カペナウムよ、おまえは天にまで上げられようともいうのか。黄泉にまで落されるであろう。一六 あなたがたに聞き従う者は、わたしに聞き従うのであり、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。一七 そしてわたしを拒む者は、わたしをおつかわしになったかたを拒むのである」。一八

七十二人が喜んで帰ってきて言った、「主よ、あなた

の名によつていたしますと、悪霊までがわたしたちに服従します。一八彼らに言われた、「わたしはサタンが電光のように天から落ちるのを見た。一九わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなたがたに害をおよぼす者はまったく無いであらう。二〇しかし、霊があなたがたに服従することを喜ぶな。むしろ、あなたがたの名が天に

しるされていることを喜びなさい。三そのとき、イエスは聖霊によつて喜びあふれて言われた、「天地の主なる父よ。あなたがたをほめたたえます。これらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子にあらわしてくださいました。父よ、これはまことに、みこころにかなった事でした。三すべての事は父からわたしに任せられています。そして、子がだれであるかは、父のほかに知っている者はありません。また父がだれであるかは、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほか、だれも知っている者はいません。三それから弟子たちの方に振りむいて、ひそかに言われた、「あなたがたが見ていることを見る目は、さいわいである。二四あなたがたに言うておく。多くの預言者や王たちも、あなたがたの見ていることを見ようとしたが、見る事ができず、あなたがたの聞いていることを聞こうとしたが、聞けなかったのである」。

二五するとそこへ、ある律法学者が現れ、イエスを試み

ようとして言った、「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。二六彼に言われた、「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか。二七彼は答えて言った、『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります。二八彼に言われた、「あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。二九すると彼は自分の立場を弁護しようと思つて、イエスに言った、「では、わたしの隣り人とはだれのことですか。三〇イエスが答えて言われた、「ある人がエルサレムからエリコに下つて行く途中、強盗どもが彼を襲ひ、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。三するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下つてきたが、この人を見ると、向こう側を通つて行つた。三二同様に、レビ人もこの場所にさしかかつてきたが、彼を見ると向こう側を通つて行つた。三三ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、三四近寄つてきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほつたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行つて介抱した。三五翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやつてください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言つた。三六この三人のうち、だれが強盗に襲

われた人の隣り人になったと思うか」。三七彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行つて同じようにしなさい」。

三八一同が旅を続けていっているうちに、イエスがある村へはいられた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。三九この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわつて、御言に聞き入っていた。四〇ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心をとりみだし、イエスのところにきて言った、「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思ひになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃつてください」。四一主は答えて言われた、「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配つて思いわずらっている。四二しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去つてはならないものである」。

第一章 一また、イエスはある所で祈つておられたが、それが終つたとき、弟子のひとりが言った、「主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください」。二そこで彼らに言われた、「祈るときには、こう言いなさい、『父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。三わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください。四わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪を

もおゆるしてください。わたしたちを試みに会わせないでください』。五そして彼らに言われた、「あなたがたのうちのだれかに、友人があるとして、その人のところへ真夜中に行き、『友よ、パンを三つ貸してください。六友だちが旅先からわたしのところに着いたのですが、何も出すものがありませんから』と言つた場合、七彼は内から、『面倒をかけないでくれ。もう戸は締めてしまつたし、子供たちもわたしと一緒に床にはいつているので、いま起きて何もあげるわけにはいかない』と言つてあらう。しかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起きて与えないが、しきりに願うので、起き上がつて必要なものをだしてくるであらう。九そこでわたしはあなたがたに言う。求めよ、そうすれば、与えられるであらう。捜せ、そうすれば見いだすであらう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであらう。一〇すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。二あなたがたのうちで、父であるものは、その子が魚を求めるのに、魚の代りにへびを与えるであらうか。三卵を求めるのに、さそりを与えるであらうか。四このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知つていようとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあるうか」。

一四さて、イエスが悪霊を追い出しておられた。それは、

おしの霊であつた。悪霊が出て行くと、おしが物を言うようになつたので、群衆は不思議に思つた。二五その中のある人々が、「彼は悪霊のかしらベルゼブルによつて、悪霊どもを追い出しているのだ」と言い、二六またほかの人は、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。二七しかしイエスは、彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ国が内部で分裂すれば自滅してしまい、また家が分れ争えば倒れてしまう。二八そこでサタンも内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによつて悪霊を追い出していると言うが、二九もしわたしがベルゼブルによつて悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間は何れによつて追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであらう。三〇しかし、わたしが神の指によつて悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところに来たのである。三一強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。三二しかし、もっと強い者が襲つてきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武器を奪つて、その分捕品を分けるのである。三三わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。三四汚れた霊が人から出ると、休み場を求めて水の無い所を歩きまわるが、見つからないので、出てきた元の家に帰ろうと言つて、三五帰つて見ると、その家はそ

うじがしてある上、飾りつけがしてあつた。二六そこでまた出て行つて、自分以上に悪い他の七つの霊を引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人の後の状態は初めよりもつと悪くなるのである。二七イエスがこう話しておられるとき、群衆の中からひとりの女が声を張りあげて言つた、「あなたが宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう。二八しかしイエスは言われた、「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである。二九さて群衆が群がり集まつたので、イエスは語り出された、「この時代は邪悪な時代である。それはしるしを求めるが、ヨナの上のしるしはほかに、なんのしるしも与えられないであらう。三〇というのは、ニネベの人々に対してヨナがしるしとなつたように、人の子もこの時代に対してしるしとなるであらう。三二南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立つて、彼らを罪に定めるであらう。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために、地の果からはるばるきたからである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここにいます。三三ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立つて、彼らを罪に定めるであらう。なぜなら、ニネベの人々はヨナの宣教によつて悔い改めたからである。しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいます。

三三だれもあかりをともして、それを穴倉の中や枘の下に置くことはしない。むしろはいつて来る人たちに、そのあかりが見えるように、燭台の上におく。三四あなたの目は、からだのあかりである。あなたの目が澄んでおれば、全身も明るい。目がわるければ、からだも暗い。三五だから、あなたの内なる光が暗くならないように注意しなさい。三六もし、あなたのからだ全体が明るくて、暗い部分が少しもなければ、ちょうど、あかりが輝いてあなたを照らす時のように、全身が明るくなるであろう。三七イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいって食卓につかれた。三八ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。三九そこで主は彼に言われた、「いったい、あなたがたパリサイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの内側は貪欲と邪惡とで満ちている。四〇愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。四一ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。四二しかし、あなた方パリサイ人は、わざわいである。はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納めておりながら、義と神に対する愛とをなさりにしている。それもなおさりにできないが、これは行わねばならない。四三あなたがたパリサイ人は、わざわいである。

四四会堂の首席や広場での敬礼を好んでいる。四四あなたがたは、わざわいである。人目につかない墓のようなものである。その上を歩いても人々は気づかないでいる。四五ひとりの律法学者がイエスに答えて言った、「先生、そんなことを言われるのは、わたしたちまでも侮辱することです。四六そこで言われた、「あなたがた律法学者も、わざわいである。負い切れない重荷を人に負わせながら、自分ではその荷に指一本でも触れようとしない。四七あなたがたは、わざわいである。預言者たちの碑を建てたが、しかし彼らを殺したのは、あなたがたの先祖であったのだ。四八だから、あなたがたは、自分の先祖のしわざに同意する証人なのだ。先祖が彼らを殺し、あなたがたがその碑を建てたのだから。四九それゆえに、『神の知恵』も言っている、『わたしは預言者と使徒とを彼らにつかわすが、彼らはそのうちのある者を殺したり、迫害したりするであろう。五〇それで、アベルの血から祭壇と神殿との間で殺されたザカリヤの血に至るまで、世の初めから流されてきたすべての預言者の血について、この時代がその責任を問われる。五一そうだ、あなたがたに言っておく、この時代がその責任を問われるであろう。五二あなたがた律法学者は、わざわいである。知識のかぎを取りあげて、自分がいらないばかりか、はいろいろとする人たちを妨げてきた。五三イエスがそこを出て行かれると、律法学者やパリサ

イ人は、激しく詰め寄り、いろいろな事を問いかけて、
 五 イエスの口から何か言いがかりを得ようと、ねらいは
 じめた。

第一二章

一 その間に、おびただしい群衆が、互

に踏み合うほどに群がってきたが、イエスはまず弟子たち
 ちに語りはじめられた、「パリサイ人のパン種、すなわち
 彼らの偽善に気をつけなさい。二 おおいがぶされたもの
 で、現れてこないものはなく、隠れているもので、知

られてこないものはない。三 だから、あなたがたが暗や
 みで言ったことは、なんでもみな明るみで聞かれ、密室
 で耳にささやいたことは、屋根の上で言いひろめられる
 であろう。四 そこでわたしの友であるあなたがたに言う

が、からだを殺しても、そのあとでそれ以上なにもでき
 ない者どもを恐れるな。五 恐るべき者がだれであるか、教
 えてあげよう。殺したあとで、更に地獄に投げ込む権威
 のあるかたを恐れなさい。そうだ、あなたがたに言っ

ておくが、そのかたを恐れなさい。六 五羽のすずめは二ア
 サリオンで売られているではないか。しかも、その一羽
 も神のみまえて忘れられてはいない。七 その上、あなた

がたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れること
 はない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者
 である。八 そこで、あなたがたに言う。だれでも人の前
 でわたしを受けいれる者を、人の子も神の使たちの前で
 受けいれるであろう。九 しかし、人の前でわたしを拒む

者は、神の使たちの前で拒まれるであろう。一〇 また、人
 の子に言い逆らう者はゆるされるであろうが、聖霊をけ
 がす者は、ゆるされることはない。二 あなたがたが会堂
 や役人や高官の前へひっぱられて行った場合には、何を
 どう弁明しようか、何を言おうかと心配しないがよい。
 三 言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるから
 である。

三 群衆の中のひとりがイエスに言った、「先生、わた
 しの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってく
 ださい。四 彼に言われた、「人よ、だれがわたしをあな
 たがたの裁判人または分配人に立てたのか。五 それか
 ら人々にむかって言われた、「あらゆる貪欲に対してよく
 よく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、

人のいのちは、持ち物にはよらないのである。六 そこ
 で一つの譬を語られた、「ある金持の畑が豊作であった。
 七 そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物を
 しまっておく所がないのだが』と思ひめぐらして、八 言っ

た、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大き
 いのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまひ込もう。
 九 そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長
 年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心してよ、

食え、飲め、楽しめ。一〇 すると神が彼に言われた、『愚
 かな者よ、あなたの魂は今夜のうちに、取り去られるで
 あらう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのもの

になるのか』。三 自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」。

三それから弟子たちに言われた、「それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようかと、命のことで思いわずらい、何を着ようかとからだのことで思いわずらうな。三命は食物にまさり、からだは着物にまさっている。

二四からずのことを考えて見よ。まくことも、刈ることもせず、また、納屋もなく倉もない。それなのに、神は彼らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、はるかにすぐれているではないか。二五あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。二六そんな小さな事さえできないのに、どうしてほかのことを思いわずらうのか。二七野の花のことを考えて見るがよい。紡ぎもせず、織りもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。二八きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあるうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。二九あなたがたも、何を食べ、何を飲もうかと、あくせくするな、また気を使うな。三〇これらのものは皆、この世の異邦人が切に求めているものである。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要であることを、ご存じである。三ただ、

御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。三二恐れるな、小さい群れよ。御国を下することは、あなたがたの父のみこころなのである。三三自分の持ち物を売って、施しなさい。自分のために古びることのない財布をつくり、盗人も近寄らず、虫も食ひ破らない天に、尽きることのない宝をたくわえなさい。

三四あなたがたの宝のある所には、心もあるからである。

三五腰に帯をしめ、あかりをともしていなさい。三六主人が婚宴から帰ってきて戸をたたくとき、すぐあけてあげようと待っている人のようにしていなさい。三七主人が帰ってきたとき、目を覚めているのを見られる僕たちは、さいわいである。よく言うておく。主人が帯をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕をしてくれるであろう。三八主人が夜中ごろ、あるいは夜明けごろに帰ってきて、もう、そうしているのを見られるなら、その人たちはさいわいである。三九このことを、わきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、自分の家に押し入らせはしないであろう。四〇あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」。

四一するとペテロが言った、「主よ、この譬を話しておられるのはわたしたちのためなのですか。それとも、みんなの者のためなのですか」。四二そこで主が言われた、「主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定め、食事をそ

なえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであるう。^{四三}主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。^{四四}よく言っておくが、主人はその僕を立てて自分の全財産を管理させるであらう。^{四五}しかし、もしその僕が、主人の帰りがおそいと心の中で思い、男女の召使たちを打ちたたき、そして食べたり、飲んだりして酔いはじめるならば、^{四六}その僕の主人は思いがけない日、気がつかない時に帰って来るであらう。そして、彼を厳罰に処して、不忠実なものたちと同じ目にあわせるであらう。^{四七}主人のこのことを知っていたながら、それに従って用意もせず勤めもしなかった僕は、多くむち打たれるであらう。^{四八}しかし、知らずに打たれるようなことをした者は、打たれ方が少ないだらう。多く与えられた者からは多く求められ、多く任せられた者からは更に多く要求されるのである。^{四九}わたしは、火を地上に投じるためにきたのだ。火がすでに燃えていたなら、わたしはどんなに願っていることか。^{五〇}しかし、わたしには受けねばならないバプテスマがある。そして、それを受けてしまうまでは、わたしはどんなにか苦しい思いをすることであらう。^{五一}あなたがたは、わたしが平和をこの地上にもたらすためにきたと思っっているのか。あなたがたに言っておく。そうではない。むしろ分裂である。^{五二}というのは、今から後は、一家の内で五人が相分れて、三人はふたりに、ふたりは

三人に対立し、^{五三}また父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに、対立するであらう。

^{五四}イエスはまた群衆に対しても言われた、「あなたがたは、雲が西に起るのを見るとすぐ、にわか雨がやってくる、と言う。果してそのとおりになる。^{五五}それから南風が吹くと、暑くなるだらう、と言う。果してそのとおりになる。^{五六}偽善者よ、あなたがたは天地の模様を見分けることを知りながら、どうして今の時代を見分けることができないのか。^{五七}また、あなたがたは、なぜ正しいことを自分で判断しないのか。^{五八}たとえば、あなたを訴える人と一緒に役人のところへ行くときには、途中でその人と和解するように努めるがよい。そうしないと、その人はあなたがたを裁判官のところへひっぱって行き、裁判官はあなたがたを獄吏に引き渡し、獄吏はあなたがたを獄に投げ込むであらう。^{五九}わたしは言っておく、最後の一レブタまでも支払ってしまうまでは、決してそこから出て来ることはできない」。

第一三章 「ちようどその時、ある人々がきて、ピラトがガリラヤ人たちの血を流し、それを彼らの犠牲の血に混ぜたことを、イエスに知らせた。^二そこでイエスは答えて言われた、「それらのガリラヤ人が、そのような災難にあったからといって、他のすべてのガリラヤ人以上に罪が深かったと思うのか。^三あなたがたに

言うが、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。四また、シロアムの塔が倒れたためにおし殺されたあの十八人は、エルサレムの他の全住民以上に罪の負債があったと思うか。五あなたがたに言うが、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。

六それから、この譬を語られた、「ある人が自分のぶどう園にいちじくの木を植えて置いたので、実を捜しにきたが見つからなかった。七そこで園丁に言った、『わたしは三年間も実を求めて、このいちじくの木のところにしたのだが、いまだに見あたらない。その木を切り倒してしまえ。なんのために、土地をむだにふさがせて置くのか』。八すると園丁は答えて言った、『ご主人様、ことしも、そのままにして置いてください。そのまわりを掘って肥料をやって見ますから。九それで来年実がなりましたら結構です。もしそれでもだめでしたら、切り倒してください』。

一〇安息日に、ある会堂で教えておられると、二そこに十八年間も病気の霊につかれ、かがんだままで、からだを伸ばすことの全くできない女がいた。三イエスはこの女を見て、呼びよせ、「女よ、あなたの病気はなおった」と言って、四手をその上に置かれた。すると立ちどころに、そのからだがまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。一四ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をい

やされたことを憤り、群衆にむかつて言った、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。安息日にはいけぬ」。一五主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。二六それなら、十八年間もサタンに縛られていた、アブラハムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったか」。二七こう言われたので、イエスに反対していた人たちはみな恥じ入った。そして群衆はこぞって、イエスがなされたすべてのすばらしいみわざを見て喜んだ。

二八そこで言われた、「神の国は何に似ているか。またそれを何にたとえようか。二九一粒のからし種のようなものである。ある人がそれを取って庭にまくと、育つて木となり、空の鳥もその枝に宿るようになる」。三〇また言われた、「神の国を何にたとえようか。三二パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。

三三さてイエスは教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレムへと旅を続けられた。三四すると、ある人がイエスに、「主よ、救われる人は少ないのですか」と尋ねた。三五そこでイエスは人々にむかつて言われた、「狭い戸口からはい入るようになさい。事実、はい入ろうとしても、はい入れない人が多いのだから。三六家の主人が立って戸を閉じ

てしまつてから、あなたがたが外に立ち戸をたたき始めて、『ご主人様、どうぞあけてください』と言つても、主人はそれに答えて、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない』と言つてあらう。三六そのとき、『わたしたちはあなたとご一緒に飲み食いしました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えてくださいました』と言ひ出して、二七彼は、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない。悪事を働く者どもよ、みんな行つてしまえ』と言つてあらう。二八あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブすべての預言者たちが、神の国にはいつてゐるのに、自分たちは外に投げ出されることになれば、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであらう。二九それから人々が、東から西から、また南から北からきて、神の国で宴会の席につくであらう。三〇こゝうしてあとのもので先になるものがあり、また、先のものであとになるものもある。

三二ちやうどその時、あるパリサイ人たちが、イエスに近寄つてきて言つた、『ここから出て行きなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています』。三三そこで彼らに言われた、『あのきつねのところへ行つてこゝう言え、『見よ、わたしはきょうもあすも悪霊を追い出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざを終えるであらう。三三しかし、きょうもあすも、またその次の日も、わたしは進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の地で死

ぬことは、あり得ないからである』。三四ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人々を石で打ち殺す者よ。ちやうどめんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであらう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかつた。三五見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまふ。わたしは言つて置く、

『主の名によつてきたるものに、祝福あれ』

とおまえたちが言う時の来るまでは、再びわたしに会うことはないであらう。

第一四章 一ある安息日のこと、食事をするため

に、あるパリサイ派のかしらの家にはいつて行かれたが、人々はイエスの様子をうかがつてゐた。三するところ、水腫をわずらつてゐる人が、みまゑにいた。三イエスは律法学者やパリサイ人たちにむかつて言われた、『安息日に人をいやすのは、正しいことかどうか』。四彼らは黙つていた。そこでイエスはその人に手を置いていやしてやり、そしてお歸しになつた。五それから彼らに言われた、『あなたがたのうちで、自分のむすこが牛が井戸に落ち込んだなら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだらうか』。六彼らはこれに対して返す言葉がなかつた。

七客に招かれた者たちが上座を選んでゐる様子をこらんになつて、彼らに一つの譬を語られた。八婚宴に招か

れたときには、上座につくな。あるいは、あなたよりも自分の高い人が招かれてゐるかも知れない。九その場合、あなたとその人を招いた者がきて、『このかたに座を譲ってください』と言うであろう。そのとき、あなたは恥じ入って末座につくことになるであろう。一〇むしろ、招かれた場合には、末座に行つてすわりなさい。そうすれば、招いてくれた人がきて、『友よ、上座の方へお進みください』と言うであろう。そのとき、あなたは席を共にするみんなの前で、面目をほどくことになるであろう。二〇おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。

三また、イエスは自分を招いた人に言われた、『午餐または晚餐の席を設ける場合には、友人、兄弟、親族、金持の隣り人などは呼ばぬがよい。恐らく彼らもあなたを招きかえし、それであなたは返礼を受けることになるから。三むしろ、宴会を催す場合には、貧乏人、不具者、足なえ、盲人などを招くがよい。一四そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであろう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう。

一五列席者のひとりがこれを聞いてイエスに「神の国で食事をする人は、さいわいです」と言つた。一六そこでイエスが言われた、「ある人が盛大な晩餐会を催して、大ぜいの人を招いた。二七晩餐の時刻になったので、招いて

おいた人たちのもとに僕を送つて、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』と言わせた。一八ところが、みんな一様に断りはじめた。最初の人は、『わたしは土地を買いましたので、行つて見なければなりません。どうぞ、おゆるしください』と言つた。一九ほかの人は、『わたしは五対の牛を買いましたので、それをしらべに行くとところです。どうぞ、おゆるしください』。二〇もうひとりの人は、『わたしは妻をめとりましたので、参ることができません』と言つた。三僕は帰つてきて、以上の事を主人に報告した。すると家の主人はおこつて僕に言つた、『いますぐに、町の大通りや小道へ行つて、貧乏人、不具者、盲人、足なえなどを、ここへ連れてきなさい』。三僕

は言つた、『ご主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席がごさいます』。三三主人が僕に言つた、『道やかきねのあたりに出て行つて、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひっぱつてきなさい。二四あなたがたに言つて置くが、招かれた人で、わたしの晩餐にあずかる者はひとりもないであろう』。

二五大ぜいの群衆がついてきたので、イエスは彼らの方に向いて言われた、二六「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのものに来るのでなければ、わたしの弟子となることはできない。二七自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。二八あな

たがたのうちで、だれかが邸宅を建てようと思うなら、それを仕上げるのに足りるだけの金を持っていくかどうかを見るため、まず、すわってその費用を計算しないだろうか。二えそうしないと、土台をすえただけで完成することができず、見ているみんなの人が、『あの人は建てかけたが、仕上げができなかった』と言ってあざ笑うようになる。三また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えるために出て行く場合には、まず座して、こちらの一万人もって、二万人を率いて向かって来る敵に対抗できるかどうか、考えて見ないだろうか。三もし自分の力にあまれば、敵がまだ遠くにいるうちに、使者を送って、和を求めるであろう。三三それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくしては、わたしの弟子となることはできない。三四塩は良いものだ。しかし、塩もききめがなくなったら、何によつて塩味を取りもどされようか。三五土にも肥料にも役立たず、外に投げ捨てられてしまう。聞く耳のあるものは聞くがよい」。

第一五章

一さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。二するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、『この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている』と言った。三そこでイエスは彼らに、この譬をお話しになった。四「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がい

なくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなつた一匹を見つけるまでは捜し歩かないであらうか。五そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、六家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなつた羊を見つめましたから』と言うであらう。七よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としな

い九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであらう。八また、ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つめるまでは注意深く捜さないであらうか。九そして、見つけたなら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と言うであらう。一〇よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであらう」。

二また言われた、『ある人に、ふたりのむすこがあった。三ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいたたく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。三三それから幾日もたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果たした。四何かも浪費してしまつたのち、その地方にひ

どいきさんがあつたので、彼は食たべることにきゆうも窮きゆうしはじめた。二五そこで、その地方ちほうのある住民しゅうみんのところに行いって身を寄よせたところが、その人は彼かれを畑はたけにやつて豚ぶたを飼かわせた。二六彼は、豚ぶたの食たべるいな豆で腹はらを満みたしたいと思おもうほどであつたが、何もくれる人ひとはなかつた。二七そこで彼は本心ほんしんに立たちかえつて言いった、『父ちちのところには食物しょくもつのあり余あまつている雇人かうにんが大おほぜいいるのに、わたしはここで飢うえて死しのうとしている。二八立たつて、父ちちのところへ帰かえつて、こう言いおう、父ちちよ、わたしは天てんにたいしても、あななたにむかつても、罪つみを犯おかしました。二九もう、あなたあなたのむすここと呼ばよれる資格しきかくはありません。どうぞ、雇人かうにんのひとり同どう様にしてください。三〇そこで立たつて、父ちちのころへ出でかけた。まだ遠とほく離はなれていたのに、父ちちは彼かれをみとめ、哀あはれに思おもつて走はしり寄より、その首くびをだいて接吻せつぶんした。三一むすこは父ちちに言いつた、『父ちちよ、わたしは天てんにたいしても、あななたにむかつても、罪つみを犯おかしました。もうあなたあなたのむすこと呼ばよれる資格しきかくはありません。三三しかし父ちちは僕われたちに言いいつけた、『さあ、早はやく、最上さいじやうの着物きものを出だしてきてこの子こに着きせ、指輪ゆびわを手てにはめ、はきものを足あしにはかせなさい。三三また、肥ふえた子牛こ牛を引ひいてきてほふりなさい。食たべて樂たのしもうではないか。三四このむすこが死しんでいたのに生いき返かえり、いなくなつていたのに見みつかつたのだから』。それから祝宴しゅくえんがはじまつた。三五ところが、兄あには畑はたけにいたが、帰かえつてきて家いえに近ちかづくと、音おん樂がくや踊おどりの音おとが聞きこ

えたので、二六ひとりの僕しもべを呼よんで、『いいたい、これは何なに事ことなのか』と尋たずねた。二七僕は答こたえた、『あなたのご兄弟きょうだいがお歸かえりになりました。無事ふじに迎むかえたというので、父上ちちうへが肥ふえた子牛こ牛をほふらせなさつたのです。二八兄あにはおこつて家いえにはいろうとしなかつたので、父ちちがでてきてなだめると、二九兄あには父ちちにむかつて言いつた、『わたしは何か年ねんもあななたに仕つかえて、一ど度どでもあなたあなたの言いいつけにそむいたことはなかつたのに、友ともだちと樂たのしむために子こやぎ一匹ひきも下くださつたことはありません。三〇それだに、遊女ゆうじよどもと一いっ緒しよになつて、あなたあなたの身代しんだいを食くいつぶしたこのあなたあなたの子こが歸かえつてくると、そのために肥ふえた子牛こ牛をほふりなさいました。三三すると父ちちは言いつた、『子こよ、あなたあなたはいつもわたしと一いっ緒しよにいるし、またわたしのものは全部ぜんぶあなたあなたのものだ。三三しかし、このあなたあなたの弟おとうとは、死しんでいたのに生いき返かえり、いなくなつていたのに見みつかつたのだから、喜よろこび祝いわうのはあたりまえである』。

第一 六章 イエスはまた、弟子でしたちに言いわれた、『ある金持かねもちのところにひとりの家令か令がいたが、彼は主人しゅじんの財産ざいさんを浪費ろうひしていると、告つげ口くちをする者ものがあつた。二そこで主人しゅじんは彼かれを呼よんで言いつた、『あなたについて聞きいていることがあるが、あれはどうなのか。あなたあなたの會計報告かいけいほうこくを出だしなさい。もう家令か令をさせて置おくわけにはいかないから』。三この家令か令は心こころの中なかで思おもつた、『どうしようか。主人しゅじんがわたしの職しやくを取り上あげようとしている。土つちを掘ほるには

力がないし、物ごいするのは恥ずかしい。四 そうだ、わかった。こうしておけば、職をやめさせられる場合、人がわたしをその家に迎えてくれるだろう。五 それから彼は、主人の負債者をひとりびとり呼び出して、初めの人に、『あなたは、わたしの主人にどれだけ負債がありますか』と尋ねた。六 『油百樽です』と答えた。そこで家令が言った、『ここにあなたの証書がある。すぐそこにすわって、五十樽と書き変えなさい』。七 次に、もうひとりに、『あなたの負債はどれだけですか』と尋ねると、『麦百石です』と答えた。これに対して、『ここに、あなたの証書があるが、八十石と書き変えなさい』と言った。八 この主人は、この不正な家令の利口なやり方をほめた。この世の子らはその時代に対しては、光の子らよりも利口である。九 またあなたがたに言うが、不正の富を用いても、自分のために友だちをつくるがよい。そうすれば、富が無くなった場合、あなたがたを永遠のすまいに迎えてくれるであろう。一〇 小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は、大事にも不忠実である。二だから、もしあなたがたが不正の富について忠実でなかったら、だれが真の富を任せるだろうか。三 また、もしほかの人のものについて忠実でなかったら、だれがあなたがたのものを与えてくれようか。四 どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方を

うとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

二 欲の深いパリサイ人たちが、すべてこれらの言葉を聞いて、イエスをあざ笑った。三 そこで彼らにむかって言われた、『あなたがたは、人々の前で自分を正しいとする人たちである。しかし、神はあなたがたの心をこぞみである。人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる。四 律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入している。五 しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方が、もっとたやすい。六 すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。

一 ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ゼいたくに遊び暮らしていた。二 ところが、ラザロという貧乏人が全身で食物でおおわれて、この金持の玄関の前にすわり、三 その食卓から落ちるもので飢えをしのぐと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。四 この貧乏人がついに死に、御使たちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。五 そして黄泉にいて苦しみなから、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。六 そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わ

たしをあわれんでください。ラザロをおつかわしになつて、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています。』
二五 アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦しみもだえている。』
二六 そればかりか、わたしたちとあなたがたとの間には大きな淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡ろうと思つてもできないし、そちらからわたしたちの方へ越えて来ることもできない。』
二七 そこで金持が言った、『父よ、ではお願いします。わたしの父の家のヘラザロをつかわしてください。』
二八 わたしに五人の兄弟がいますので、こんな苦しい所へ来るのがないように、彼らに警告していただきたいのです。』
二九 アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とかある。それに聞くがよからう。』
三〇 金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人の中からだれかが兄弟たちのところへ行つてくれましたら、彼らは悔い改めるでしょう。』
三一 アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者などに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があつても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであらう。』

第一章 七章 イエスは弟子たちに言われた、「罪の誘惑が来ることは避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざわいである。二これらの小さい者のひとり

を罪に誘惑するよりは、むしろ、ひきうすを首にかけられて海に投げ入れられた方が、ましである。三あなたはたは、自分で注意していなさい。もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、彼をいさめなさい。そして悔い改めたら、ゆるしてやりなさい。四もしあなたに対して一日に七度罪を犯し、そして七度『悔い改めます』と言つてあなたのところへ帰つてくれば、ゆるしてやるがよい。』

五使徒たちは主に「わたしたちの信仰を増してください」と言つた。六そこで主が言われた、「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この桑の木に、『抜け出して海に植われ』と言つたとしても、その言葉どおりになるであらう。七あなたがたのうちのだれかに、耕作か牧畜かをする僕があるとする。その僕が畑から帰つて来たとき、彼に『すぐきて、食卓につきなさい』と言うだろうか。八かえつて、『夕食の用意をしてくれ。そしてわたしが飲み食いをするあいだ、帯をしめて給仕をきなさい。そのあとで、飲み食いをするがよい』と、言うではないか。九僕が命じられたことをしたからといって、主人は彼に感謝するだろうか。一〇同様にあなたがたも、命じられたことを皆してしまつたとき、『わたしたちはふつつかない僕です。すべき事をしたに過ぎません』と言いなさい。』

二イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。三そして、ある村にはいられ

ると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちどまり、「三声を張りあげて、『イエスさま、わたしたちをあわれんでください』と言った。『四イエスは彼らをごらんになって、『祭司たちのところに行つて、からだを見せなさい』と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。』五そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰つてきて、『六イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であつた。』七イエスは彼にむかつて言われた、『きよめられたのは、十人ではなかつたか。ほかの九人は、どこにいるのか。』八神をほめたたえるために帰つてきたものは、この他国人のほかにはいないのか。』九それから、その人に言われた、『立つて行きなさい。あなたの信仰があなたを救つたのだ。』

三〇神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イエスは答えて言われた、『神の国は、見られるかたちで来るものではない。二また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ。』

三一それから弟子たちに言われた、『あなたがたは、人の目の目を一日でも見たいと願つても見ることができない時が来るであらう。二三人々はあなたがたに、『見よ、あそこ』『見よ、ここに』と言うだらう。しかし、そちらへ行くな、彼らのあとを追うな。二四いはずだが天の端か

らひかり出て天の端へとひらめき渡るように、人の子もその日には同じようであるだらう。二五しかし、彼はまず多くの苦しみを受け、またこの時代の人々に捨てられねばならない。二六そして、ノアの時にあつたように、人の子の時にも同様なことが起るであらう。二七ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲つてきて、彼らをことごとく滅ぼした。二八ロトの時にも同じようなことが起つた。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、二九ロトがソドムから出て行つた日に、天から火と硫黄とが降つてきて、彼らをことごとく滅ぼした。三〇人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であらう。三一その日には、屋上にいる者は、自分の持ち物が家の中にあつても、取りにおりるな。畑にいる者も同じように、あとへもどるな。三二ロトの妻のことを思い出しなさい。三三自分の命を救おうとするものは、それを失ひ、それを失うものは、保つのである。三四あなたがたに言つておく。その夜、ふたりの男が一つ寢床にいるならば、ひとり取り去られ、他のひとりは残されるであらう。三五ふたりの女が一緒にうすをひいているならば、ひとり取り去られ、他のひとりは残されるであらう。三六ふたりの男が畑におれば、ひとり取り去られ、他のひとりは残されるであらう。三七弟子たちは『主よ、それはどこであるのですか』と尋ねた。するとイエスは言われた、

「死体のある所には、またはげたかが集まるものである」。

第一 八章

「また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。三ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。三ところが、その同じ町にひとりのやもめがいて、彼のもとにたびたびきて、『どうぞ、わたしを訴える者をさばいて、わたしを守ってください』と願いつづけた。四彼はしばらくの間、きき入れないでいたが、そのうち、心のうちで考えた、『わたしは神をも恐れず、人を人とも思わぬが、五このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のようになる裁判をしてやろう。そうしたら、絶えずやってきてわたしを悩ますことがなくなるだろう』。六そこで主は言われた、『この不義な裁判官の言っていることを聞いたか。七まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあるうか。八あなたがたに言っておくが、神はすみやかにさばいてくださるであろう。しかし、人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか』。

九自分を義人だと自任して他人を見下している人たちに対して、イエスはまたこの譬をお話になった。一〇ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。二パリサイ人は立って、ひとりてこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者では

なく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。三わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。四ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしないうで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしく下さい』と。五あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であつて、あのパリサイ人ではなかった。六おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう』。

七イエスにさわっていたために、人々が幼な子らを見てもともに連れてきた。ところが、弟子たちはそれを見て、彼らをたしなめた。八するとイエスは幼な子らを呼び寄せて言われた、『幼な子らをわたしのもとに来るままにしておきなさい、止めてはならない。神の国はこのような者の国である。九よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない』。

一〇また、ある役人がイエスに尋ねた、『よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか』。一一イエスは言われた、『なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。一二いましめはあなたの知っているとおりである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え』。十三すると彼は言った、『それらのことはみな、小さい時から守っております』。

三 イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。」
 三 彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であつたからである。
 二四 イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。
 二五 富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい。」
 二六 これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われることができるのですか」と尋ねると、
 二七 イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる。」
 二八 ペテロが言った、「ごらんなさい、わたしたちは自分のものを捨てて、あなたに従いました。」
 二九 イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでも神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子を捨てた者は、
 三〇 必ずこの時代ではその幾倍もを受け、また、きたるべき世では永遠の生命を受けるのである。」
 三一 イエスは十二弟子を呼び寄せて言われた、「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子について預言者たちがしるしたことは、すべて成就するであろう。
 三二 三人の子は異邦人に引きわたされ、あざけられ、はずかしめを受け、つばきをかけられ、
 三三 また、むち打たれてから、ついに殺され、そして三日目によみがえるであらう。」
 三四 弟子たちには、これらのことが何一つわからな

かつた。この言葉が彼らに隠されていたので、イエスの言われた事が理解できなかった。

三五 イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道ばたにすわって、物ごいをしていた。
 三六 群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた。
 三七 ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと聞かされたので、
 三八 声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。
 三九 先頭に立つ人々が彼をしかつて黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい。」
 四〇 そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。
 四一 彼が近づいたとき、
 四二 わたしに何をしてほしいのか」とおたずねになると、「主よ、見えるようになることです」と答えた。
 四三 そこでイエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」
 四四 すると彼は、たちまち見えるようになった。
 四五 そして神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした。

第一九章 「さて、イエスはエリコにはいつて、その町をお通りになった。
 二 ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であつた。
 三 彼は、イエスがどんな人か見たいと思つていたが、背が低かつたので、群衆にさえぎられて見る事ができなかった。
 四 それでイエスを見るために、前の方に走っ

て行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。五イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、『ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから』。六そこでザアカイは急いでおりてきて、よるこんでイエスを迎え入れた。七人々はみな、これを見てつぶやき、『彼は罪人の家にはいつて客となった』と言った。八ザアカイは立つて主に言った、『主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します』。九イエスは彼に言われた、『きょう、救がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。』十人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである』。

二人々がこれらの言葉を聞いているときに、イエスはなお一つの譬をお話しになった。それはエルサレムに近づいてこられたし、また人々が神の国はたちまち現れると思つていたためである。三それで言われた、『ある身分の高い人が、王位を受けて帰ってくるために遠い所へ旅立つことになった。四そこで十人の僕を呼び十ミナを渡して言った、『わたしは帰って来るまで、これで商売をしなさい』。五ところが、本国の住民は彼を憎んでいたの

を受けて帰ってきたとき、だれがどんなも受けをしたかを知ろうとして、金を渡しておいた僕たちを呼んでこさせた。六最初の者が進み出て言った、『ご主人様、あなたの一ミナで十ミナをもうけました』。七主人は言った、『よい僕よ、うまくやった。あなたは小さい事に忠実であつたから、十の町を支配させる』。八次の者がきて言った、『ご主人様、あなたの一ミナで五ミナをつくりました』。九そこでこの者にも、『では、あなたは五つの町のかしらになれ』と言った。十それから、もうひとりの者がきて言った、『ご主人様、さあ、ここにあなたの一ミナがあります。わたしはそれをふくさに包んで、しまつておきました。三あなたはきびしい方で、おあずけにならなかつたものを取りたて、おまきにならなかつたものを刈る人なので、おそろしかったのです』。三彼に言った、『悪い僕よ、わたしはあなたの言つたその言葉であなをさばこう。わたしがきびしくて、あずけなかつたものを取りたて、まかなかつたものを刈る人間だと、知つてゐるのか。三三では、なぜわたしの金を銀行に入れなかつたのか。そうすれば、わたしが帰ってきたとき、その金を利子と一緒に引き出したであらうに』。二四そして、そばに立つていた人々に、『その一ミナを彼から取り上げて、十ミナを持つてゐる者に与えなさい』と言つた。二五彼らは言つた、『ご主人様、あの人は既に十ミナを持っています』。二六『あなたがたに言うが、おおよそ持つ

持っている人には、なお与えられ、持っていない人からは、持っているものまでも取り上げられるであろう。二七しかしたしが王になることを好まなかったあの敵どもを、ここにひっぱってきて、わたしの前で打ち殺せ」。

二八イエスはこれらのことを言ったのち、先頭に立ち、エルサレムへ上って行かれた。二九そしてオリブという山に沿ったベテベゲとベタニヤに近づかれたとき、ふたりの弟子をつかわして言われた、三〇「向こうの村へ行きなさい。そこにはいったら、まだだれも乗ったことのないろばの子がつかないであるのを見るであろう。それを解いて、引いてきなさい。三一もしだれかが『なぜ解くのか』と問うたら、『主がお入り用なのです』と、そう言いなさい。三二そこで、つかわされた者たちが行って見ると、果して、言われたとおりであった。三三彼らが、そのろばの子を解いていると、その持ち主たちが、『なぜろばの子を解くのか』と言ったので、三四「主がお入り用のです」と答えた。三五そしてそれをイエスのところに引いてきて、その子ろばの上に自分たちの上着をかけてイエスをお乗せした。三六そして進んで行かれると、人々は自分たちの上着を道に敷いた。三七いよいよオリブ山の下り道あたりに近づかれると、大ぜいの弟子たちはみな喜んで、彼らが見たすべての力あるみわざについて、声高らかに神をさんびして言いはじめた、

三八「主の御名によってきたる王に、

祝福あれ。
天には平和、

いと高きところには栄光あれ」。

三九ところが、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った、「先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい」。四〇答えて言われた、「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」。

四一いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた、四二「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている。四三いつかは、敵が周囲に塁を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、四四おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。四五それから宮にはいり、商売人たちの追い出しはじめて、四六彼らに言われた、『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたがたはそれを盗賊の巣にしてしまった」。

四七イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者また民衆の重立った者たちはイエスを殺そうと思っていたが、四八民衆がみな熱心にイエスに耳を傾けていたので、手のくだしようがなかった。

第二〇章 一ある日、イエスが宮で人々に教え、

福音を宣べておられると、祭司長や律法学者たちが、長老たちと共に近寄ってきて、ニイエスに言った、「何の權威によってこれらの事をするのですか。そうする權威をあなたに与えたのはだれですか、わたしたちに言ってください」。そこで、イエスは答えて言われた、「わたしも、ひと言たずねよう。それに答えてほしい。四ヨハネのバプテスマは、天からであったか、人からであったか。五彼らは互に論じて言った、「もし天からだと言えば、では、なぜ彼を信じなかったのか」とイエスは言うだろう。六しかし、もし人からだと言えば、民衆はみな、ヨハネを預言者だと信じているから、わたしたちを石で打つだろう。七それで彼らは「どこからか、知りません」と答えた。八イエスはこれに対して言われた、「わたしも何の權威によってこれらの事をするのか、あなたがたに言うまい」。九そこでイエスは次の譬を民衆に語り出された、「ある人がぶどう園を造って農夫たちに貸し、長い旅に出た。一〇季節になったので、農夫たちのところへ、ひとりの僕を送って、ぶどう園の収穫の分け前を出させようとした。ところが、農夫たちは、その僕を袋だきにし、から手で帰らせた。一一そこで彼はもうひとりの僕を送った。彼らはその僕も袋だきにし、侮辱を加えて、から手で帰らせた。一二そこで更に三人目の者を送ったが、彼らはこの者も、傷を負わせて追い出した。一三ぶどう園の

主人は言った、『どうしようか。そうだ、わたしの愛子をつかわそう。これなら、たぶん敬ってくれるだろう。』一四ところが、農夫たちは彼を見ると、『あれはあと取りだ。あれを殺してしまおう。そうしたら、その財産はわれわれのものになるのだ』と互に話し合い、一五彼をぶどう園の外に追い出して殺した。そのさい、ぶどう園の主人は、彼らをどうするだろうか。一六彼は出てきて、この農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人々に与えるであろう。人々はこれを聞いて、『そんなことがあつてはなりません』と言った。一七そこで、イエスは彼らを見つめて言われた、『それでは、一八家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった』と書いてあるのは、どういうことか。一九すべてその石の上に落ちる者は打ち砕かれ、それがだれかの上に落ちかかるなら、その人はこなみに人にされるであろう。二〇このとき、律法学者たちや祭司長たちはイエスに手をかけようと思つたが、民衆を恐れた。いまの譬が自分たちに当て語られたのだと、悟つたからである。二一そこで、彼らは機会をうかがい、義人を装うまわし者どもを送って、イエスを総督の支配と權威とに引き渡すため、その言葉じりを捕えさせようとした。二二彼らは尋ねて言った、『先生、わたしたちは、あなたの語り教えられることが正しく、また、あなたは分け隔てをなさ

ず、真理に基いて神の道を教えておられることを、承知しています。三とところで、カイザルに貢を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。三イエスは彼らの悪巧みを見破って言われた、二四「デナリを見せなさい。それにあるのは、だれの肖像、だれの記号なのか。」「カイザルのです」と、彼らが答えた。二五するとイエスは彼らに言われた、「それなら、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。二六そこで彼らは、民衆の前でイエスの言葉じりを捕えることができず、その答に驚嘆して、黙ってしまった。

二七復活というのではないと言ひ張っていたサドカイ人のある者たちが、イエスに近寄つてきて質問した、二八「先生、モーセは、わたしたちのためにこう書いています、『もしある人の兄が妻をめとり、子がなくて死んだなら、弟はこの女をめとって、兄のために子をもうけねばならない』。二九とところで、ここに七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、子がなくて死に、三〇そして次男、三男と、次々に、その女をめとり、三七人とも同様に、子をもうけずに死にました。三三のちに、その女も死にました。三三さて、復活の時には、この女は七人のうちだれの妻になるのですか。七人とも彼女を妻にしたのですか。三四イエスは彼らに言われた、「この世の子らは、めとったり、とついたりするが、三五かの世にはいつて死人からの復活にあずかるにふさわしい者たちは、めとつた

り、とついたりすることはない。三六彼らは天使に等しいものであり、また復活にあずかるゆえに、神の子でもあるので、もう死ぬことはあり得ないからである。三七死人がよみがえることは、モーセも柴の篇で、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、これを示した。三八神は死んだ者の神ではなく、生きてゐる者の神である。人はみな神に生きるものだからである。三九律法学者のうちのある人々が答えて言った、「先生、仰せのとおりです。四〇彼らはそれ以上何もあえて問ひかけようとしなかった。

四一イエスは彼らに言われた、「どうして人々はキリストをダビデの子だと言うのか。四二ダビデ自身が詩篇の中で言っている、

『主はわが主に仰せになった、

四三あなたの敵をあなたの足台とする時まで、

わたしの右に座していなさい』。

四四このように、ダビデはキリストを主と呼んでいる。それなら、どうしてキリストはダビデの子であろうか。

四五民衆がみな聞いてゐるとき、イエスは弟子たちに言われた、四六「律法学者に気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩くのを好み、広場での敬礼や会堂の上席や宴会の上座をよるこび、四七やもめたちの家を食い倒し、見えのために長い祈をする。彼らはもっとときびしいさばきを受けるであらう」。

第二章

いせん箱に献金を投げ入れるのを見られ、ニまた、ある貧しいやもめが、レプタ二つを入れるのを見て三言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。四これらの人たちはみな、ありあまる中から献金を投げ入れたが、あの婦人は、その乏しい中から、持っている生活費全部を入れたからである」。

五ある人々が、見事な石と奉納物とで宮が飾られていることを話していたので、イエスは言われた、六「あなたがたはこれらのものをながめているが、その石一つでもくずされずに、他の石の上に残ることもなくなる日が、来るであろう。七そこで彼らはたずねた、「先生、では、いつそんなことが起るのでしょうか。またそんなことが起るような場合には、どんな前兆がありますか。八イエスが言われた、「あなたがたは、惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がそれだとか、時が近づいたとか、言うであろう。彼らについて行くな。九戦争と騒乱とのうわさを聞くとともに、おじ恐れるな。こうしたことはまず起らねばならないが、終りはすぐにはこない」。

一〇それから彼らに言われた、「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。ニまた大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。三しかし、これらの

あらゆる出来事のある前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう。二三それは、あなたがたがあかしをする機会となるであろう。二四だからどう答弁しようかと、前もって考えておかぬことに心を決めなさい。二五あなたの反対者のだれもが抗弁も否定もできないような言葉と知恵とを、わたしが授けるから。二六しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあるう。二七また、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。二八しかし、あなたがたの髪の毛一つじでも失われることはない。二九あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂を勝ち取るであろう。

三〇エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たならば、そのときは、その滅亡が近づいたときととりなさい。三二そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。市中にいる者は、そこから出て行くがよい。また、いなかにいる者は市内にはいつてはいけぬ。三三それは、聖書に記されたすべての事が実現する刑罰の日であるからだ。三三その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。地上には大きな苦難があり、この民にはみ怒りが臨み、二四彼らはつるぎの刃に倒れ、また捕えられて諸国へ引きゆかれるであろう。そしてエルサレムは、異邦人の時期が満ちるまで、彼らに踏みにじられているであろう。

三二五 また日と月と星とに、しるしが現れるであらう。そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波とのとどろきにおじ惑い、二二六 人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであらう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。二二七 そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るであらう。二二八 これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから。

二二九 それから一つの譬を話された、「いちじくの木を、またすべての木を見なさい。三〇 はや芽を出せば、あなたがたはそれを見て、夏がすでに近いと、自分で気づくのである。三〇一 このようにあなたがたも、これらの事が起るのを見たなら、神の国が近いのだとさとりなさい。三〇二 よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。三〇三 天地は滅びるであらう。しかしわたしの言葉は決して滅びることがない。

三〇四 あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわたしのうにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい。三〇五 その日は地の全面に住むすべての人に臨むのであるから。三〇六 これらの起るうとしていてすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。

三〇七 イエスは昼のあいだは宮で教え、夜には出て行って

オリブという山で夜をすごしておられた。三〇八 民衆はみな、み教を聞こうとして、いつも朝早く宮に行き、イエスのもとに集まった。

第二二章 一 さて、過越といわれている除酵祭が近づいた。二 祭司長たちや律法学者たちは、どうかしてイエスを殺そうと計っていた。民衆を恐れていたからである。

三 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれていたユダに、サタンがはいった。四 すなわち、彼は祭司長たちや宮守がしらたちのところへ行って、どうしてイエスを彼らに渡そうかと、その方法について協議した。五 彼らは喜んで、ユダに金を与える取決めをした。六 ユダはそれを承諾した。そして、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、機会をねらっていた。

七 さて、過越の小羊をほふるべき除酵祭の日がきたので、ハイエスはベテロとヨハネとを使いに出して言われた、「行って、過越の食事ができるように準備をしなさい。」八 彼らは言った、「どこに準備をしたらよいのですか。」九 イエスは言われた、「市内にはいたら、水がめを持って行く男に出会えうであらう。その人がはいる家までついて行って、二 その家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます。』三 すると、その主人は席の整えられた二階の広間を見せてくれるから、そこに用意をしなさい。

い」。二三弟子たちは出て行つてみると、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。

二四時間になったので、イエスは食卓につかれ、使徒たちも共に席についた。二五イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしよう、切に望んでいた。二六あなたがたに言つて置くが、神の国で過越が成就する時までには、わたしは二度と、この過越の食事をするのではない。二七そして杯を取り、感謝して言われた、「これを取つて、互に分けて飲め。二八あなたがたに言つておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造つたものを、いっさい飲まない。二九またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。三〇食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。三しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。三人の子は定められたとおり、去つて行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである。三三弟子たちは、自分たちのうちのだれが、そんな事をしようとしているのだろうと、互に論じはじめた。三四それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言つて、争論が彼らの間に、起つた。三五そこで

イエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

三六しかし、あなたがたは、そうであつてはならない。かえつて、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。三七食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。三八あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。三九それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、四〇わたしの国で食卓について飲み食いさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであらう。四一シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願つて許された。四二しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈つた。それで、あなたが立ち直つたときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。四三シモンが言つた、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたと一緒に行く覚悟です。四四するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言つておく。きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言ふだろう。四五そして彼らに言われた、「わたしは財布も袋もくつも

持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか」。彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。三六そこで言われた、「しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持って行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。三七あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに数えられた』としるしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。三八弟子たちが言った、「主よ、ごらんさない、ここにつるぎが二振りございます」。イエスは言われた、「それでよい」。

三九イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。四〇いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、「誘惑に陥らないように祈りなさい」。四一そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、四二「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。四三そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。四四イエスは苦しきもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。四五祈を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのほて寝入っているのをごらんになって、四六言われた、「なぜ

眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていないさ」。四七

四八イエスがまだそう言っておられるうちに、そこに群衆が現れ、十二弟子のひとりでユダという者が先頭に立って、イエスに接吻しようとして近づいてきた。四九そこでイエスは言われた、「ユダ、あなたは接吻をもって人の子を裏切るのか」。五〇イエスのそばにいた人たちは、事のなりゆきを見て、「主よ、つるぎで切りつけてやりましうか」と言って、五一そのうちのひとりが、祭司長の僕に切りつけ、その右の耳を切り落した。五二イエスはこれに對して言われた、「それだけでやめなさい」。そして、その僕の耳に手を触れて、おいやしになった。五三それから、自分にむかって来る祭司長、宮守がしら、長老たちに對して言われた、「あなたがたは、強盗にむかうように剣や棒を持って出てきたのか。五四毎日あなたがたと一緒に宮にいた時には、わたしに手をかけなかった。だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」。五五それから人々はイエスを捕え、ひっぱって大祭司の邸宅へつれて行った。ペテロは遠くからついて行った。五五人々は中庭のまん中に火をたいて、一緒にすわっていたので、ペテロもその中にすわった。五六すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。五七ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」

と言った。五八しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。五九一時間たつてから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから」。六〇ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。六一主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。六二そして外へ出て、激しく泣いた。

六三イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、六四目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。六五そのほか、いろいろな事を言つて、イエスを愚弄した。

六六夜が明けたとき、人民の長老、祭司長たち、律法学者たちが集まり、イエスを議会に引き出して言つた、六七「あなたがキリストなら、そう言ってもらいたい」。イエスは言われた、「わたしは言つても、あなたがたは信じないだろう。六八また、わたしはたがはずねても、答えないだろう。六九しかし、人の子は今からのち、全能の神の右に座するであろう。七〇彼らは言つた、「では、あなたは神の子なのか」。イエスは言われた、「あなたがたの言うとおりである」。七一すると彼らは言つた、「これ以上、なんの証拠

がいるか。われわれは直接彼の口から聞いたのだから」。

第二三章 群衆はみな立ちあがつて、イエスをピラトのところへ連れて行つた。七二そして訴え出て言つた、「わたしたちは、この人が国民を惑わし、貢をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました」。七三ピラトはイエスに尋ねた、「あなたがユダヤ人の王であるか」。七四イエスは「そのとおりである」とお答えになった。七五そこでピラトは祭司長たちと群衆とにむかつて言つた、「わたしはこの人になんの罪もみとめない」。七六ところが彼らは、ますます言いつのつてやまなかつた、「彼は、ガリラヤからはじめてこの所まで、ユダヤ全国にわたつて教え、民衆を煽動しているのです」。七七ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ね、七八そしてヘロデの支配下のものであることを確かめたので、ちやうどこのころ、ヘロデがエルサレムにいたのをさいわい、そちらへイエスを送りどけた。七九ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会つて見たいと長いあいだ思つていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。八〇それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかつた。八一祭司長たちと律法学者たちとは立つて、激しい語調でイエスを訴えた。八二またヘロデはその兵卒どもと一緒になつて、イエスを侮辱したり嘲弄したりし

たあげく、はなやかな着物を着せてピラトへ送りかえした。二二ヘロデとピラトとは以前は互に敵視していたが、この日に親しい仲になった。

二三ピラトは、祭司長たちと役人たちと民衆とを、呼び集めて言った、一四「おまえたちは、この人を民衆を惑わすものとしてわたしのところに連れてきたので、おまえたちの面前でしらべたが、訴え出ているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。二五ヘロデもまたみとめなかった。現に彼はイエスをわれわれに送りかえしてきた。この人はなんら死に当るようなことはしていないのである。二六だから、彼をむち打ってから、ゆるしてやることにしよう。二七祭ごとにピラトがひとりの囚人をゆるしてやることになっていた。二八ところが、彼らはいっせいに叫んで言った、「その人を殺せ。バラバをゆるしてくれ」。二九このバラバは、都で起った暴動と殺人とのかどで、獄に投ぜられていた者である。三〇ピラトはイエスをゆるしてやりたいと思つて、もう一度かれらに呼びかけた。三しかし彼らは、わめきたてて「十字架につけよ、彼を十字架につけよ」と言いつづけた。三三ピラトは三度目に彼らにむかつて言った、「では、この人は、いったい、どんな悪事をしたのか。彼には死に当る罪は全くみとめられなかった。だから、むち打ってから彼をゆるしてやることにしよう。三三ところが、彼らは大声をあげて詰め寄り、イエスを十字架につけるように要求した。

そして、その声が勝つた。三四ピラトはついに彼らの願いどおりにすることに決定した。三五そして、暴動と殺人とのかどで獄に投ぜられた者の方を、彼らの要求に応じてゆるしてやり、イエスの方は彼らに引き渡して、その意のままにまかせた。

二六彼らがイエスをひいてゆく途中、シモンというクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて十字架を負わせ、それをになつてイエスのあとから行かせた。

二七大ぜいの民衆と、悲しみ嘆いてやまない女たちの群れとが、イエスに従つて行つた。二八イエスは女たちの方に振りむいて言われた、「エルサレムの娘たちよ、わたしのために泣くな。むしろ、あなたがた自身のため、また自分の子供たちのために泣くがよい。二九不妊の女と子を産まなかつた胎と、ふくませなかつた乳房とは、さいわいだ」と言う日が、いまに来る。三〇そのとき、人々は山にむかつて、われわれの上に倒れかかれと言ひ、また丘にむかつて、われわれにおおいかぶされと言ひ出すであらう。三もし、生木でさえもそうされるなら、枯木はどうされることであらう。

三三さて、イエスと共に刑を受けるために、ほかにふたりの犯罪人も引かれていった。三三されこうべと呼ばれてゐる所に着くと、人々はそこでイエスを十字架につけ、犯罪人たちも、ひとり右に、ひとりは左に、十字架につけた。三四そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをお

ゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。人々はイエスの着物をくじ引きで分けた。民衆は立って見ていた。役人たちもあざ笑って言った、「彼は他人を救った。もし彼が神のキリスト、選ばれた者であるなら、自分自身を救うがよい」。兵卒どももイエスをのしり、近寄ってきて酔いぶどう酒をさし出して言った、「三十七」あなたがユダヤ人の王なら、自分を救いなさい。三十八イエスの上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札がかけてあった。

十字架にかけられた犯罪人のひとり、あなたがキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエスに悪口を言いつづけた。四〇もうひとり、それをたしなめて言った、「おまえは同じ刑を受けていながら、神を恐れないのか。四一お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない。四二そして言った、「イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください。四三イエスは言われた、「よく言っておくが、あなたはきよう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」。

四四時はもう昼の十二時ごろであったが、太陽は光を失い、全地は暗くなって、三時に及んだ。四五そして聖所の幕がまん中から裂けた。四六そのとき、イエスは声高く叫

んで言われた、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」。こう言ってついに息を引きとられた。四七百卒長はこの有様を見て、神をあがめ、「ほんとうに、この人は正しい人であった」と言った。四八この光景を見に集まってきた群衆も、これらの出来事を見て、みな胸を打ちながら帰って行った。四九すべてイエスを知っていた者や、ガリラヤから従ってきた女たちも、遠い所に立って、これらのことを見ていた。

五〇ここに、ヨセフという議員がいたが、善良で正しい人であった。五一この人はユダヤの町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。彼は議会の議決や行動には賛成していなかった。五二この人がピラトのところへ行つて、イエスのからだの引取り方を願ひ出て、五三それを取りおろして亜麻布に包み、まだだれも葬ったことのない、岩を掘って造った墓に納めた。五四この日は準備の日であつて、安息日が始まりかけていた。五五イエスと一緒にガラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだを納められる様子を見とどけた。五六そして帰って、香料と香油とを用意した。

第二四章 一週の初めの日、夜明け前に、女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。二ところが、石が墓からころがしてあるので、三中にはいつてみると、主イエスのからだが見当らなかった。四そのため途方に

くれていると、見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。^五女たちは驚き恐れて、顔を地に伏せていると、このふたりの者が言った、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。^六そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい。^七すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえり、と仰せられたではないか。^八そこで女たちはその言葉を思い出し、^九墓から帰って、これらいつさいのことを、十一弟子や、その他みんなの人に報告した。^{一〇}この女たちというのは、マグダラのマリヤ、ヨハンナ、およびヤコブの母マリヤであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。^{一一}ところが、使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。^{一二}ベテロは立つて墓へ走って行き、かかんで中を見ると、亜麻布だけがそこにあったので、事の次第を不思議に思いながら帰って行った。」

二三 この日、ふたりの弟子が、エルサレムから七マイルばかり離れたエマオという村へ行きながら、^{二四}このいつさいの出来事について互に語り合っていた。^{二五}語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。^{二六}しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。^{二七}イエスは

彼らに言われた、「歩きながら互に語り合っているその話は、なんのことなのか」。彼らは悲しそうな顔をして立ちどまった。^{二八}そのひとりのクレオバという者が、答えて言った、「あなたはエルサレムに泊まっていながら、あなただけが、この都でこのごろ起ったことをご存じないのですか」。^{二九}それは、どんなことか」と言われると、彼らは言った、「ナザレのイエスのことです。あのかたは、神とすべての民衆との前で、わざにも言葉にも力ある預言者でしたが、^{三〇}祭司長たちや役人たちが、死刑に処するために引き渡し、十字架につけたのです。^{三一}わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました。しかもその上に、この事が起ってから、きょうが三日目なのです。^{三二}ところが、わたしたちの仲間である数人の女が、わたしたちを驚かせました。というのには、彼らが朝早く墓に行きますと、^{三三}イエスのからだが見当たらないので、帰ってきましたが、そのとき御使が現れて、『イエスは生きておられる』と告げたと申すのです。^{三四}それで、わたしたちの仲間が数人、墓に行ってみますと、果して女たちが言ったとおりで、イエスは見当りませんでした」。^{三五}そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のにぶいたため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。^{三六}キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。^{三七}こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、

聖書全体にわたり、ご自身についてしてある事どもを、説きあかされた。二八それから、彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行かれる様子であった。二九そこで、しいて引き止めて言った、「わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮になっており、日もはや傾いています」。イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた。三〇一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、三一彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。三二彼らは互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか」。三三そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていた。三四「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなされた」と言っていた。三五そこでふたりの者は、途中であったことや、パンをおさきになる様子でイエスだとわかったことなどを話した。三六こう話していると、イエスが彼らの中にお立ちになった。「そして「やすかれ」と言われた。」三七彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。三八そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。三九わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。

「四〇こう言って、手と足とお見せになった。」四一彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っている。四二イエスが「ここに何か食物があるか」と言われた。四三彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると、四四イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた。四五それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。四六そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、四七言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえり、四八そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。四九あなたがたは、これらの事の証人である。五〇見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。五一それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。五二祝福しておられるうちに、彼らを離れて、「天にあげられた。」五三彼らは「イエスを拝し、」非常な喜びをもってエルサレムに帰り、五三絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。